

かわせみ



Hachioji
Kawasemikai

Kawasemi



190 KAWASEMI

1993.8

No. 11

八王子カワセミ会・発行

目次

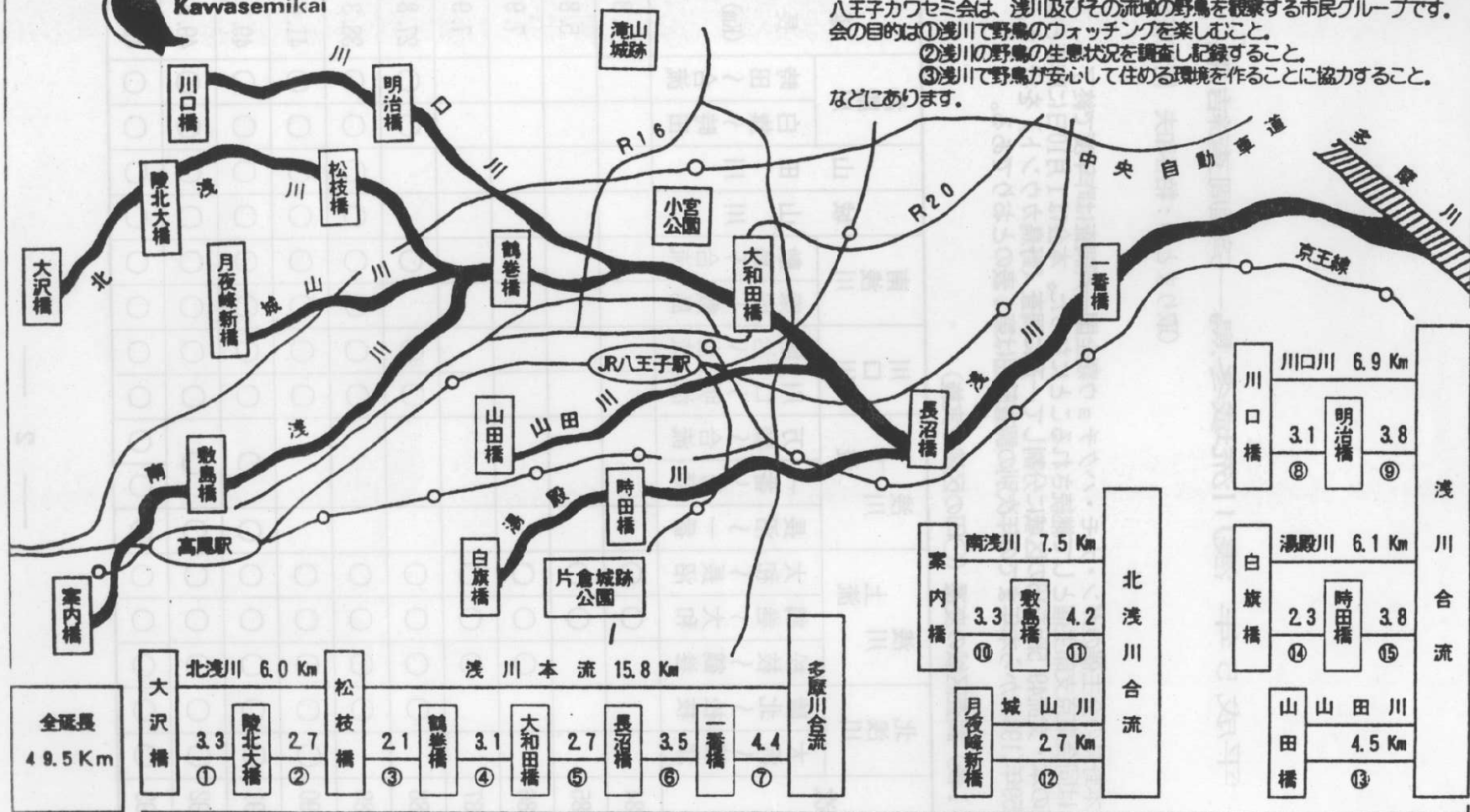
	ページ
☆ 浅川流域の冬鳥一斉調査	2
☆ 八王子市のオオルリ生息調査	10
☆ 浅川のカルガモ繁殖状況調査	14
☆ 東浅川のヒメアマツバメ	17
☆ ハクセキレイの集団ねぐら	18
☆ 鳥信	19
☆ カオグログビチョウの出現	26
☆ 川口川でサギのコロニー発見	27
☆ 寺沢川改修についての要望書提出、他	28
☆ 八王子市の緑地保全地域について、他	29
☆ 多摩川・浅川合流点の自然環境保全計画	30
☆ ウオッチング・コーナー	31
◇ 水鳥探鳥会に参加して	本島 てるみ
◇ 浅川全域歩く記	粕谷 和夫
◇ カンムリカイツブリ観察記	田中 英吉
◇ 谷津干潟探鳥会に参加して	小沢 礼子
◇ 探鳥俳句	小沢 節子
◇ 野鳥か酒か	高橋 紘
◇ アオバズク観察日記	小沢 節子・礼子
◇ 知っている方・教えて下さい	大関 豊
◇ 四尾連湖探鳥会	柚木 鎮夫
◇ 大菩薩探鳥会に参加して	小笠原正顕・敏子
◇ 北アルプス燕岳探鳥会	大関 豊
◇ 感動！オオセッカ祭り	馬場 裕
◇ アマチュア無線を始めてみませんか	
◇ 駒ヶ根支部通信	平沢 辰夫
☆ TAMA・LIFE 21	51
☆ 編集後記	52



Hachiōji
Kawasemikai

八王子カワセミ会の主な活動範囲 位置図

八王子カワセミ会は、浅川及びその流域の野鳥を観察する市民グループです。
 会の目的は①浅川で野鳥のウォッチングを楽しむこと。
 ②浅川の野鳥の生息状況を調査し記録すること。
 ③浅川で野鳥が安心して住める環境を作ることと協力すること。
 などにあります。



平成5年 浅川流域冬鳥一斉調査結果

(取りまとめ：粕谷和夫 阿江範彦)

日本野鳥の会主催のガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査は昨年度で終了し、本年からは同会東京支部主催として継続されることになった。本会は1月10日に昨年と同様浅川の本・支流49.5kmを16の区域に分割して一斉に調査(野鳥カウント)を行った。昭和59年(1984)から本年までの年次別の調査範囲は第1表のとおりである。

(第1表) 調査区域の変遷 (○印の区域を実施)

年次	北浅川		浅川 上流			浅川 下流			川口川		南浅川		城山	湯殿川		延長 (Km)	
	大沢 〜 陵北	陵北 〜 松枝	松枝 〜 鶴巻	鶴巻 〜 大和	大和 〜 長沼	長沼 〜 一番	一番 〜 万願	万願 〜 合流	川口 〜 明治	明治 〜 合流	案内 〜 敷島	敷島 〜 合流		山 川	田 川		白旗 〜 時田
1984				○	○												5.8
1985				○	○												5.8
1986			○	○	○												7.9
1987			○	○	○												7.9
1988		○	○	○	○				○	○		○			○	○	27.8
1989		○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	38.3
1990	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	41.6
1991	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	49.5
1992	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	49.5
1993	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49.5

本年度の調査参加会員数は46名であり、各区域別の具体的な範囲及び調査担当者の氏名は第2表のとおりである。

(第2表) 平成5年の浅川における調査区域及び調査担当者

区 域		延長 (Km)		調査担当者	
1	北浅川 6.0km	大沢橋	3.3	今井達郎 前田義明	登坂久雄
		陵北大橋			
		松枝橋			
		鶴巻橋			
		大和田橋			
		長沼橋			
		一番橋			
		万願寺歩道橋			
多摩川合流					
9	川口川 6.9km	川口橋	3.1	関根伸一 関根光世	川戸恵一 栗原勝
		明治橋			
		浅川合流			
11	南浅川 7.5km	案内橋	3.3	川上恚 久保田ヤス子	
		敷島橋			
		北浅川合流			
13	城山川	月夜峰新橋	2.	木村晴美 小澤礼子	
		北浅川合流			
14	山田川	山田橋	4.5	門口一雄	
		浅川合流			
15	湯殿川 6.1km	白旗橋	2.3	粕谷和夫 西脇茂雄	山根章義
		時田橋			
		浅川合流			
		合 計	49.5	46 名	

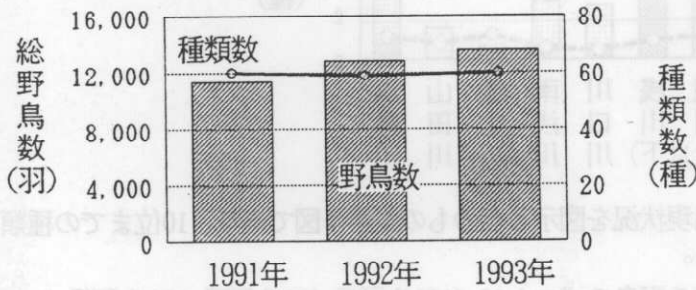
(第3表) 区域別全野鳥出現数 (1993.1.10)

番号	名称	北浅川		浅川上流				浅川下流			川口川		南浅川		城山	山田	湯殿川		合計	
		大沢	陵北	松枝	鶴巻	大和	長沼	一番	万歩	川口	明治	案内	敷島	月夜	山田	白旗	時田	時田		合流
		陵北	松枝	鶴巻	大和	長沼	一番	万歩	合流	明治	合流	敷島	合流	合流	合流	時田	合流			
5	カイヅリ						3												3	
40	カク			3	58	56	6	17	90										230	
52	ゴイサギ							11		7	12								30	
57	ゴイサギ		1	2	13	17	3	5	1										42	
59	コサギ	4	7	8	34	6	5	7	10		4	1	2		1	1	3		93	
62	アサギ					1	1	2											4	
69	クロトキ							1											1	
87	マモ		12	2	2			4							2	2			24	
88	カササギ	27	98	43	225	61	61	57	25	43	120	48	131	27	13	22	53		1,054	
89	コサギ	19	61	90	102	372	213	435	320	28	55		89	35	1	80	44		1,944	
92	オオヨシサギ					3													3	
93	ヒドリサギ			2	32	51	95	90	40				6				2		318	
95	オオサギ		3	14	158	209	82	80	87		10		21	6		30	18		718	
97	ハシビロサギ					30	16	10	3								5		64	
104	キンクロハジロ					2													2	
120	トビ		1	1	3				1										6	
123	オオカ								1										1	
126	ハイカ		1																1	
145	チョウゲンソウ					2													2	
149	コジュキ	3										1			7				11	
151	キジ		1			1													2	
177	イカルチドリ	2				2	2	19	1										26	
218	イソギ		3	2		10		11						1					27	
230	クサギ					2			1										3	
245	コリカモメ	3	21	22	163	96	196	55	52	3	3		37				8		659	
246	セロカモメ		2		23	6		4	2				1						38	
296	キジバト	19	17	20	22	31	11	36	16	23	9	21	9	3	18	15	4		274	
326	カウセミ	3	5	2		1				1	1	1			1				15	
339	コガラ	2	4			4				2					2	2			16	
344	ヒヨ					2													2	
354	キセキレイ	5	6	4	2	3	6	8	2	4	5	15	3	3	1	3	4		74	
355	ハセキレイ	3	9	11	7	27	19	10	9	6	9	3	11	4	13	15	9		165	
356	セロキセキレイ	18	27	16	19	37	11	25	6	11	22	5	18	4	3	7	8		237	
363	クサギ	3	4	6	2	47	5	8	10	1	5		6	1		5	3		106	
367	ヒヨドリ	21	17	12	9	20	18	15	16	14	16	27	21	5	31	15	9		266	
369	モズ	2	6	4		5	2	1		2	3	1	3		2	2			33	
386	オリーブサギ											1			1				2	
387	ジョウビタキ	5	3	2	4	4	1		1		1	5	1	1		1	1		30	
400	アカハラ																		2	
405	ワグミ	11	15	17	19	40	12	23	12	11	9	16	8	8	19	7	8		235	
410	ウグイス	1	4	1		1		1	3		1	1							13	
440	ヤマシロ											3			4				7	
441	シジュウカラ	33	36	12	1	17	3	5	11	6	6	6	2	9	12	4	3		166	
444	メジロ	4					2						12	1					19	
449	オオソ	22	106	30	5	17	8	12	7		5			4	4	5			225	
455	カンザキ		20	27		8		1		1	7								64	
461	アサジ	4	36	20	5	24	2	11	15	2	3	5		3		5			135	
464	オオジュリン							4											4	
471	カラヒトリ	30	360	190	131	201	172	196	80	19	76		45	7	34	40	12		1,593	
486	シメ	2	15	3		2		1			2								25	
488	スズメ	18	223	230	291	354	151	152	120	84	155	150	185	21	96	400	106		2,736	
493	ムクドリ	29	48	72	88	93	45	41	13	36	24	21	67	9	16	40	22		664	
496	カラス	1																	1	
498	オナジ		20			4	5				20					20			79	
503	ハシボソガラス	7	30	6	3	49	64	15	9	11	9	8	12	1	11	10	6		251	
504	ハシブトガラス		15	40	7	24	28	3	1	6	1	2	3		1	2	1		134	
A	アヒル	1				2	1					3	6						13	
B	Fバト	19	59	83	76	43	63	11	17		81	21	83	12	79	10	6		663	
C	オシロイ																2		2	
合計		321	1296	997	1504	1987	1311	1386	984	321	674	377	781	164	374	745	335		13,557	
		30種	36	33	28	44	32	37	33	22	29	24	26	20	25	26	22		59種	

1. 種類と数

調査区間が49.5kmになった1991年以降3ヵ年の動向をみると種類が約60種、出現数が12,000羽前後となっている。(第1図)

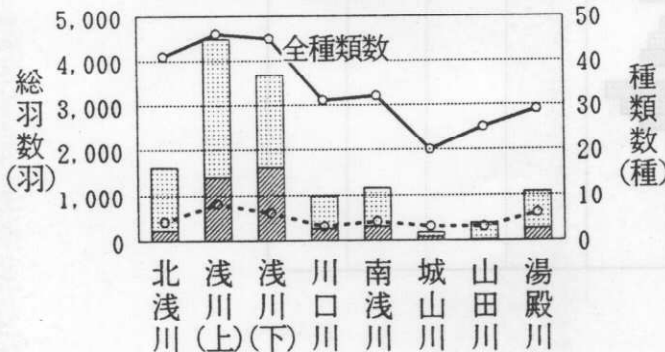
(第1図) 浅川の冬鳥の総種類数と総野鳥数



本年の調査結果を調査区域別にカモ類とそれ以外に分けて表示したものが第2図及び第3図であり、浅川上流部(松枝橋~長沼橋) 同下流部(長沼橋~多摩川合流)に野鳥が多く、この傾向は昨年までの調査結果と同じである。

(第2図) 浅川の冬鳥の区域別種類数と総羽数(1993)

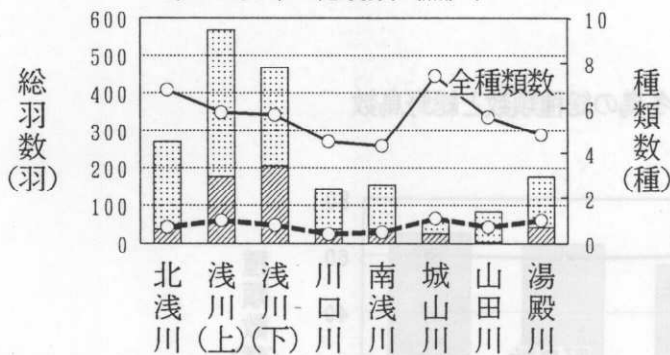
(カモの総羽数 (斜線) と種類数 (●))
(カモ以外の総羽数 (点線))



(第3図) 浅川の冬鳥の区域別1 km当たりの種類数と総羽数(1993')

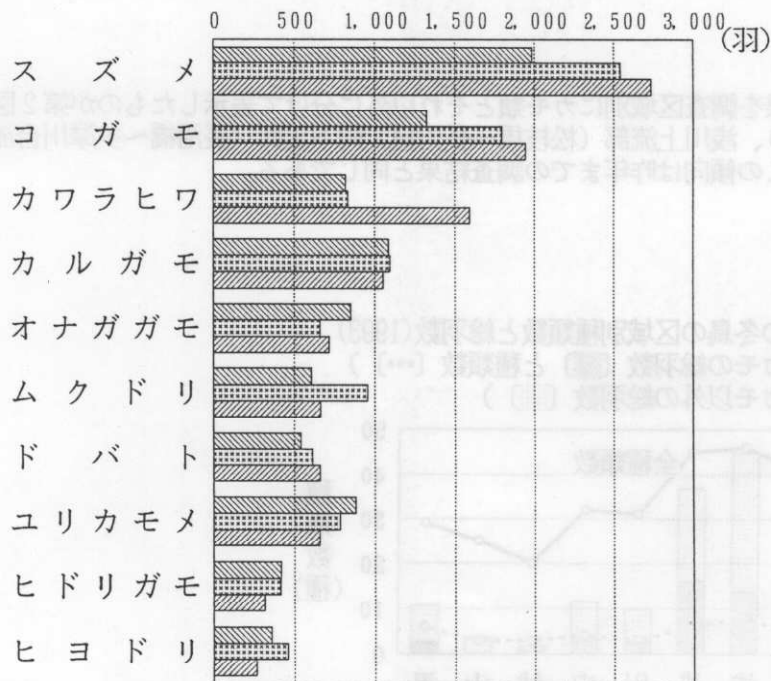
(カモの総羽数 [斜線] と種類数 [点線])

(カモ以外の総羽数 [格子])



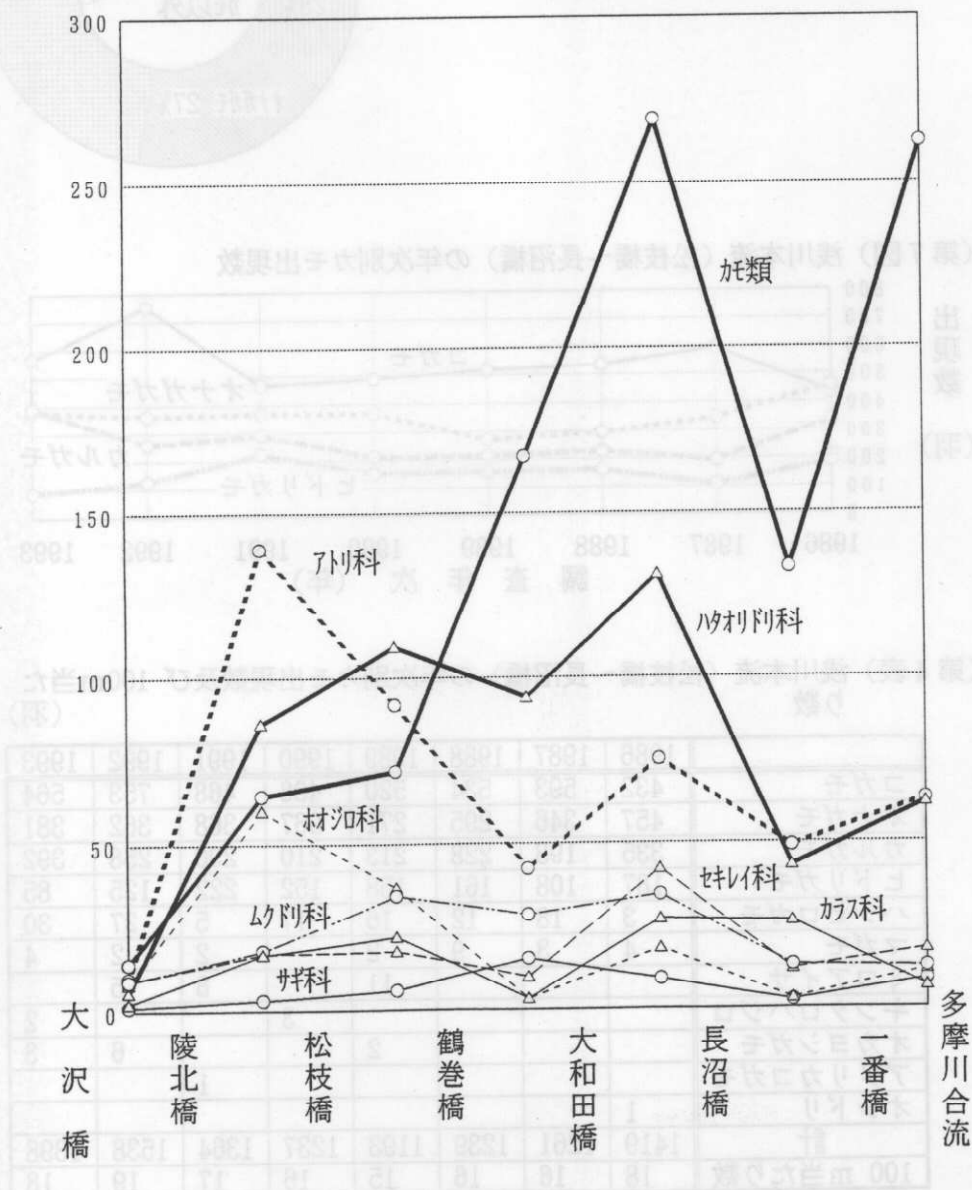
種類別に上位10種の出現状況を図示したものが第4図であり、10位までの種類は昨年と同じ種類である。

(第4図) 浅川における野鳥のベスト10 (1991' [斜線] 1992' [格子] 1993' [点線])



浅川本流について恩方の大沢橋から日野の多摩川合流まで21.8kmの分類別出現状況は第5図のとおりで、カモ類、アトリ科、ホオジロ科、ハタオリドリ科の仲間に地域差が認められる。

(第5図) 浅川流域における各区分ごとの総数 (1993年1月：1Kmあたり)

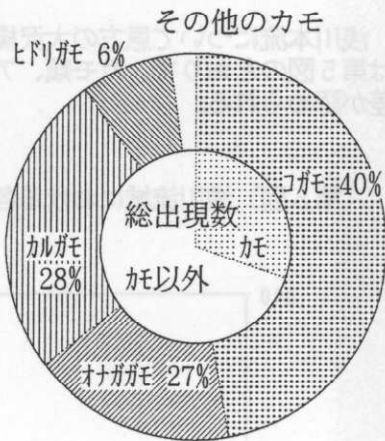


2. カモ類

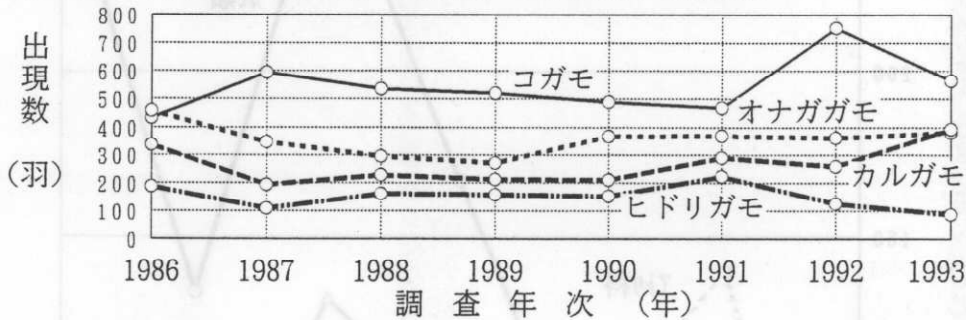
カモ類は8種、4,127羽が記録され全体の30%を占めた。種類別では、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモの上位4種で全体の98%を占めた。

カモ類の最も多く出現する浅川本流の松枝橋～長沼橋間 7.9kmについて、1986年以降の動向をみると殆ど変化なく、100m当たりの平均数も18羽で昨年までと大きな差はなかった(第7図、第4表)

(第6図) 総出現数に占めるカモ類の割合と主なカモの比率



(第7図) 浅川本流(松枝橋～長沼橋)の年次別カモ出現数



(第4表) 浅川本流(松枝橋～長沼橋)の年次別カモ出現数及び100m当たり数

	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993
コガモ	432	593	534	520	488	468	753	564
オナガガモ	457	346	295	271	367	368	362	381
カルガモ	335	193	228	213	210	290	258	392
ヒドリガモ	187	108	161	158	152	222	125	85
ハシビロガモ	3	18	12	16	17	5	27	30
マガモ	4	3	9	2		2	2	4
ミコアイサ				11		8	5	
キンクロハジロ					3			2
オカヨシガモ				2			6	3
アメリカコガモ						1		
オシドリ	1							
計	1419	1261	1239	1193	1237	1364	1538	1398
100 m当たり数	18	16	16	15	16	17	19	18

3. その他の主な野鳥

水鳥、水辺の鳥の年次変化は第5表のとおりで、本年はカワウ、ゴイサギ及びセグロカモメが増えたことが注目される。

(第5表) 浅川における水鳥、水辺の鳥の年次変化 (羽)

年	1988	1989	1990	1991	1992	1993
調査範囲	27.8km	38.3km	41.6km	49.5km	49.5km	49.5km
カイツブリ	3	2		1	3	3
カワウ				108	76	230
ゴイサギ	8	21	2	6	4	30
ダイサギ	3	8	6	31	28	42
コサギ	71	64	51	54	66	93
アオサギ		1		8	4	4
イカルチドリ	15	3	15	22	38	26
ハマシギ		5		5		
クサシギ		1		2	2	
イソシギ	4	23	11	23	21	27
タシギ	1	5	5	5	2	3
セグロカモメ			4	5	5	38
ユリカモメ	161	271	424	881	783	659
カワセミ	10	10	11	13	24	14
キセキレイ	19	27	51	59	75	74
ハクセキレイ	117	122	131	182	200	165
セグロセキレイ	148	201	190	236	275	237
タヒバリ	77	101	61	101	125	106

カモ類、水鳥、水辺の鳥以外で出現数の多い冬鳥は第6表のとおりで、年次別に特に大きな変化は認められない。

(第6表) 浅川における出現数の多い冬鳥の年次変化 (羽)

年	1988	1989	1990	1991	1992	1993
調査範囲	27.8km	38.3km	41.6km	49.5km	49.5km	49.5km
キジバト	191	123	263	206	314	274
ドバト	179	258	390	544	616	663
ヒヨドリ	158	189	298	359	459	266
ツグミ	127	254	379	179	279	235
カワラヒワ	766	583	1,100	819	835	1,593
スズメ	2,590	1,592	2,371	1,987	2,543	2,736
ムクドリ	540	525	700	609	958	664

八王子市の鳥オオルリ今年は30羽

八王子市の鳥オオルリの生息数調査を昨年に引き続き実施した。調査内容、結果は下記に示すとおりであるが、八王子市全域でオオルリの♂30羽の生息を確認した（昨年25羽）。

また、同時に同じ調査区域内に出現した全野鳥の種類を調査し、65種を記録した（昨年56種）。

記

1：調査場所

八王子市内の標高170メートル以上の沢筋、谷筋16区域で総延長は約111km（第1表）である。

基本的には昨年と同じ範囲であるが、⑤と⑥及び⑫と⑬が分割された区域である。

2：調査時期

平成5（1993）年4月下旬～6月下旬

（場所により調査日は異なるが同一場所で2回以上調査した。）

3：調査参加会員数 延べ36名

（本年は5月5日に裏高尾小下沢で実施したオオルリ勉強会参加者は除いて集計した。第2表）

4：調査方法

オオルリが生息している可能性が高いと思われる自然環境の良好な山間部の沢筋、谷筋に出向き、双眼鏡やフルドスコープを使い姿や声を確認してオオルリ♂の数をカウントした。同時に同じ調査区域内に出現した全野鳥の種類を調査した。オオルリ♀はカウントしなかった。

5：結果

結果は第2表のとおりであり、16の沢筋、谷筋（16区域）の内、14区域で合計30羽の♂を確認した。2区域では1羽も確認できなかったが、ここは他と比べ開発の進んだ所であり、特に美山地区（山入川）は砂利の採掘で山が切り崩されている所である。

オオルリのカウントと同時に実施した全野鳥の調査結果は第3表のとおりであり、本年は65種が出現した。本年はサンコウチョウが5区域で出現したのが目立つところである。

（取りまとめ：粕谷和夫 阿江範彦）

(第1表) 調査した場所

場 所	支 流	調 査 対 象 範 囲
①上 川	川口川	今熊バス停から上 (今熊山北沢、同南沢、金剛の滝奈多沢)
②美 山	北浅川・山入川	御屋敷入口から上 (山入川、鹿子沢、御屋敷川)
③小 津	” ・山入川	小津バス停から上 (山入川、ニシ沢)
④醜 醐	” ・醜醐川	関場バス停から上 (醜醐沢、三つ沢)
⑤和 田 峠 下	” ・案下川	くぬぎ橋バス停から上 (和田林道、くぬぎ沢)
⑥明 王 峠 下	” ・ ”	陣馬高原バス停からオキナツルシ沢、便楼沢
⑦力 石 周 辺	” ・土代沢他	関場～駒木野間の支流 (西土代沢、東土代沢、白沢、駒木野沢)
⑧松 竹 周 辺	” ・板当沢他	左戸～松竹間の支流 (板当沢、こむれ沢、滝の沢川)
⑨元 八 王 子	城山川	宗関寺から上流 (城山川上流部)
⑩裏 高 尾	南浅川・小仏川	日影JRトンネルから上流 (小下沢、小仏川上流部)
⑪小 仏 城 山 下	” ・ ”	小仏川 (蛇滝口～日影間) 日影沢 (小仏城山下まで)
⑫高 尾 山 1	” ・ ”	日影沢 (落合～蛇滝口間) 行の沢、1号、4号、5号路
⑬高 尾 山 2	” ・案内川	6号路 (琵琶滝コース)、3号路
⑭大 垂 水 峠 下	” ・ ”	国道20号中沢川出合いから上流
⑮表 高 尾	” ・中沢川他	案内川支流 (中沢、入沢川、榎窪川)
⑯初 沢 町	” ・初沢川	浅川中学校裏から上流の初沢川

(第2表) 調査結果

場 所	調査延長(Km)	オオルリ有無	責 任 者	調査参加延人数
①上 川	6.0	2	河村 道寛	3
②美 山	12.0	0	湯原 直彦	2
③小 津	4.3	2	三好 恒雄	2
④醍 醐	4.0	1	馬場 裕	2
⑤和 田 峠 下	4.0	2	古山 隆	1
⑥明 王 峠 下	10.0	2	門口 一雄	2
⑦力 石 周 辺	4.5	1	山崎 悠一	3
⑧松 竹 周 辺	7.0	2	今井 達郎	1
⑨元 八 王 子	2.0	1	関根 伸一	4
⑩裏 高 尾	6.5	3	阿江 範彦	1
⑪小 仏 城 山 下	18.0	2	榛沢 努	1
⑫高 尾 山 1	7.0	1	木村 晴美	2
⑬高 尾 山 2	5.5	4	粕谷 和夫	2
⑭大 垂 水 峠 下	5.0	4	川上 恚	6
⑮表 高 尾	7.2	3	大関 豊	3
⑯初 沢 町	8.0	0	田中 英吉	1
計	111.0	30		36

(第3表) オオルリ出現地における全野鳥の出現状況 (○印) 1993.4月下旬~6月下旬

区 域 種 類	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	計 (出現ヶ所)
	上 川 Km	美 山 12.0	小 津 4.3	醍 醐 4.0	和 田 岬 下 4.0	明 王 岬 下 10.0	力 石 周 辺 4.5	松 竹 周 辺 7.0	元 八 王 子 2.0	裏 高 尾 6.5	小 仏 城 山 下 18.0	高 尾 山 1 7.0	高 尾 山 2 5.5	大 垂 水 岬 下 5.0	表 高 尾 7.2	初 沢 町 8.0	
052 ゴイサギ																	1
059 コナギ																	2
088 カルガモ																	9
119 ハチクマ																	1
120 トビ																	5
123 オオクカ																	1
125 ツミ																	1
130 サシバ																	1
145 チョウゲンボウ																	1
149 コジュケイ																	8
151 キジ																	5
296 キジバト																	14
298 アオバト																	5
302 カッコウ																	2
303 ツツドリ																	9
304 ホトトギス																	6
315 フクロウ																	1
317 ヨタカ																	2
319 ヒメアマツバメ																	1
326 カワセミ																	2
331 アオゲラ																	3
339 コゲラ																	12
344 ヒバリ																	1
347 ツバメ																	11
350 イワツバメ																	5
354 キセキレイ																	15
355 ハクセキレイ																	2
356 セグロセキレイ																	7
367 ヒヨドリ																	16
369 モズ																	4
375 カワガラス																	3
376 ミソサザイ																	10
385 コルリ																	3
396 トラツグミ																	1
399 クロツグミ																	15
400 アカハラ																	2
403 シロハラ																	1
405 ツグミ																	1
409 ヤブサメ																	13
410 ウグイス																	16
422 センダイムシクイ																	14
427 キビタキ																	6
430 オオルリ																	14
433 コシメビタキ																	1
434 サンコウチョウ																	5
435 エナガ																	11
438 コゲラ																	5
439 ヒガラ																	13
440 ヤマガラ																	14
441 シジュウカラ																	16
442 コジュウカラ																	1
444 メジロ																	14
455 カシラダカ																	1
449 ホオジロ																	14
461 アオジ																	4
462 クロジ																	1
471 カワラヒワ																	5
485 イカル																	9
488 スズメ																	13
493 ムタドリ																	5
496 カケス																	15
498 オナガ																	5
503 ハシホソガラス																	13
504 ハシブトガラス																	15
B トバト																	4
計(種類数)	29	43	28	19	30	34	32	26	26	15	17	23	33	33	34	19	65

平成5年

浅川のカルガモ繁殖状況調査結果

浅川で繁殖しているカルガモを1988年以来毎年カウントしています。今年も例年どおり浅川の本支流を15に区分し、会員が分担して6月から7月の間に調査しました。

◎結果は第1表のとおりで、親子連れのファミリー数は48組、子 254羽で、昨年の54組 272羽と比べ減少し、3年連続の減少となりました。

◎本支流別の内訳は第2表のとおりであり、川口川は昨年に引き続き少なく、また本年は浅川本流での減少が顕著です。

◎各区間別の内訳は第3表のとおりで、浅川の全ての区間でカルガモが繁殖しています。

◎北浅川（大沢橋～陵北大橋）では毎年繁殖地が上流に移行している傾向がうかがえます。

◎（10）南浅川（案内橋～敷島橋）では調査中に6カ所でカジカガエルの声を聞きました。

なお、本年の区間別調査担当者は次のとおりです。（取りまとめ：粕谷 和夫）

- (1) 北浅川 (大沢橋 ～ 陵北大橋)・・・今井達郎
- (2) 北浅川 (陵北大橋～松枝橋)・・・河村道寛・洋子
- (3) 浅川本流 (松枝橋 ～ 鶴巻橋)・・・福島弥四郎
- (4) 浅川本流 (鶴巻橋 ～ 大和田橋)・・・田中英吉
- (5) 浅川本流 (大和田橋～ 長沼橋)・・・川上恵
- (6) 浅川本流 (長沼橋 ～ 一番橋)・・・山崎悠一・久美子
- (7) 浅川本流 (一番橋 ～ 多摩川合流点)・阿江範彦
- (8) 川口川 (川口橋 ～ 明治橋)・・・関根伸一・光世
- (9) 川口川 (明治橋 ～ 浅川合流点)・・・三好恒雄・北平章
- (10) 南浅川 (案内橋 ～ 敷島橋)・・・川上恵
- (11) 南浅川 (敷島橋 ～ 浅川合流点)・・・榛沢努
- (12) 城山川 (月夜峰新橋～浅川合流点)・・・木村晴美
- (13) 山田川 (山田橋 ～ 浅川合流点)・・・門口一雄
- (14) 湯殿川 (白旗橋 ～ 時田橋)・・・三富恒雄
- (15) 湯殿川 (時田橋 ～ 浅川合流点)・・・大関豊

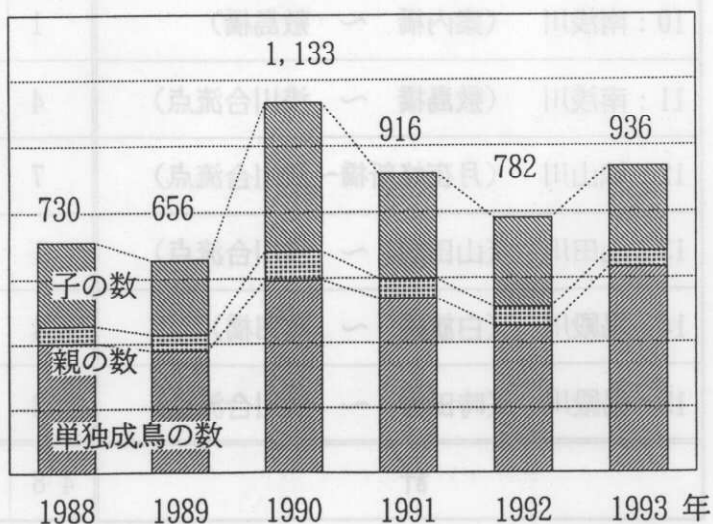
(第1表) 浅川におけるカルガモの繁殖状況年次変化 (単位: 組、羽)

年次	親子連れ				単独成鳥	総計
	組数	親の数	子の数	平均子数		
1988	52	52	276	5.3	402	730
1989	45	49	228	5.1	379	656
1990	84	88	451	5.4	594	1133
1991	57	61	318	5.6	537	916
1992	54	58	272	5.0	452	782
1993	48	49	254	5.3	633	936

(第2表) 浅川の本支流別カルガモの親子連れ組数 (単位: 組)

年次	北浅川	浅川本流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	合計
1988	2	30	13	2	0	1	4	52
1989	0	18	7	6	9	1	4	45
1990	2	36	15	11	9	1	10	84
1991	2	22	10	5	5	1	12	57
1992	3	24	5	4	6	1	11	54
1993	4	19	5	5	7	1	7	48

(第1図) カルガモ総数の年変化



(第3表) 平成5年 区間別カルガモ調査結果 (1993年6月～7月)

区 間	親子連れ			単 独 成 鳥
	組数	親	子	
1 : 北浅川 (大沢橋 ～ 陵北大橋)	2	2	8	29
2 : 北浅川 (陵北大橋～松枝橋)	2	2	8	27
3 : 浅川本流 (松枝橋 ～ 鶴巻橋)	5	5	21	92
4 : 浅川本流 (鶴巻橋 ～ 大和田橋)	10	10	67	108
5 : 浅川本流 (大和田橋～ 長沼橋)	1	1	5	68
6 : 浅川本流 (長沼橋 ～ 一番橋)	1	1	5	63
7 : 浅川本流 (一番橋 ～ 多摩川合流点)	2	2	8	68
8 : 川口川 (川口橋 ～ 明治橋)	2	2	5	42
9 : 川口川 (明治橋 ～ 浅川合流点)	3	3	18	20
10 : 南浅川 (案内橋 ～ 敷島橋)	1	1	7	8
11 : 南浅川 (敷島橋 ～ 浅川合流点)	4	4	12	12
12 : 城山川 (月夜峰新橋～浅川合流点)	7	8	44	12
13 : 山田川 (山田橋 ～ 浅川合流点)	1	1	7	12
14 : 湯殿川 (白旗橋 ～ 時田橋)	4	4	22	28
15 : 湯殿川 (時田橋 ～ 浅川合流点)	3	3	17	44
計	48	49	254	633

東浅川のヒメアマツバメ (1993年1月~6月)

八王子市東浅川の京王高尾線高架下の越冬ヒメアマツバメの今期の調査結果は次のとおりでした。3月の調査で数が激減し、翌日の再調査の結果、巣の落下(自然落下か人為的なものか不明)が認められ、ヒメアマツバメの大半はどこかへ移動してしまったかと憂慮されたが、4月以降約30羽程度が残っていることが確認された。

なお、ここは元はイワツバメの集団営巣地だったものをヒメアマツバメが乗り取り、1990年からはイワツバメは姿を消してしまいましたが、本年、隣接地の東浅川小学校校舎で約20羽のイワツバメの新たなコロニーが形成された。

(観察者: 川上 恵)

調査月日	状 況
1. 17	約50羽確認。朝の出巣状況は次のようであった。(7:30 ~ 8:25) 7:30 ~ 7:35 ~ 7:40 ~ 7:45 ~ 7:50 ~ 7:55 ~ 8:00 (2羽) (3羽) (5羽) (10羽) (11羽) (11羽) 8:00 ~ 8:05 ~ 8:10 ~ 8:15 ~ 8:20 (3羽) (2羽) (3羽) (0羽)
2. 13	約40~50羽確認
3. 15	朝の出巣12羽 夕の帰巣4羽に激減
3. 16	再調査、朝の出巣18羽。フィールドスコープで巣の状況を見たところ、巣のかたまり4ヵ所の内3ヵ所が自然落下又は人為的な理由で落下していた。
4. 18	約30羽確認。昼間上空旋回中ランデブー飛行(求愛?)と見られる行動を観察した。
5. 20	約30羽確認。昼間5~6羽が巣に出入り(子育て中か?)
6. 18	約30羽確認。昼間数羽が巣に出入り。 隣接の東浅川小学校校舎でイワツバメ約20羽の営巣中コロニーを発見。

ハクセキレイの集団ねぐら

八王子市横山町3丁目の三角広場にあるハクセキレイの集団ねぐら（ヤマモモ及びクスノキ）からの朝の飛び出し数を1990年2月から毎月1回カウントしている。1993年1月～6月のカウント結果は、次表のとおりでした。

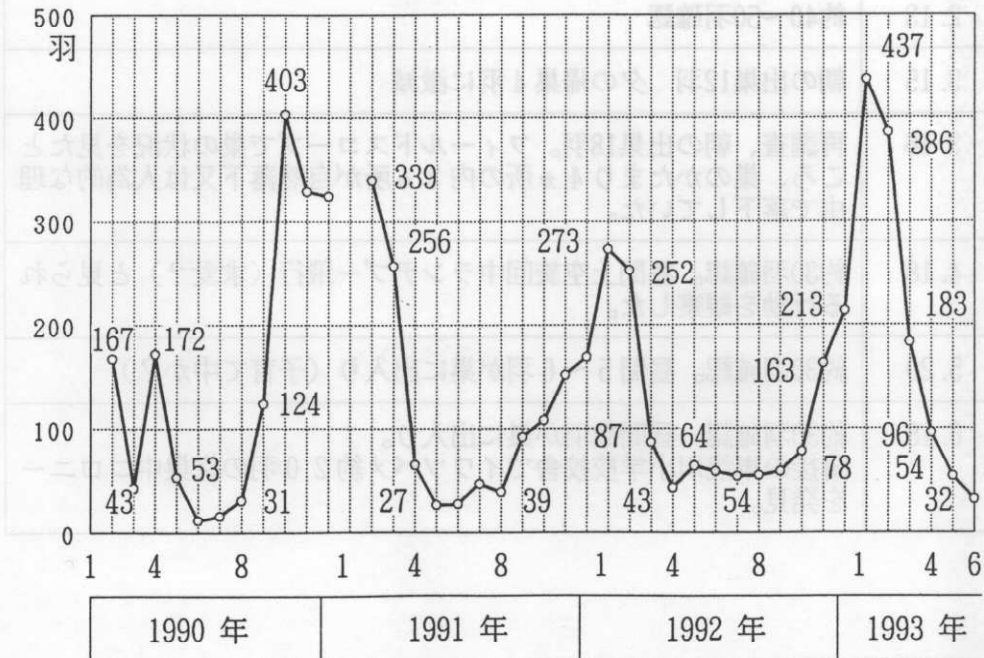
また、1990年からの変化は下図のとおりで、過去最高は437羽（1993年1月）最低は12羽（1990年6月）でした。

（観察者：田中英吉）

年月日	3:31	4:01	4:31	5:01	5:31	6:01	6:31	計
	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	
93. 1. 29						431	6	437
2. 27				15	367	4		386
3. 23			35	145	3			183
4. 20		48	44	4				96
5. 27	17	37						54
6. 22	21	11						32

（単位：羽）

ハクセキレイ集団ねぐら飛び出し数の変化（91年1月は、データ欠落）



鳥 信

(1993年1月～6月)



1. 夏鳥の初認

(1) サ サ ゴ イ

4. 25 1羽 浅川 (松枝橋～鶴巻橋)

福島弥四郎

北平 章

小池一男

(2) ツツバメ

3. 19 1羽 浅川 (暁橋)

登坂久雄

(3) イワツバメ

3. 21 1羽 八王子工業高校付近

清水 茂

(4) ウグイスのさえずり

2. 14 1羽 八王子市絹ヶ丘 (自宅の庭)

山崎悠一

(5) オオルリ

4. 23 1羽 高尾山6号路

川上 恵

2. 通過, 終認

(1) センダイムシクイ (通過)

3. 28 1羽 多摩川 (滝山城跡下)

三好恒雄

4. 9 1羽 八王子城跡 (城山川上流)

大関 豊

(2) キビタキ (通過)

4. 25 ♂ 1羽 片倉城跡公園

門口一雄, 裕子

(3) ハシビロガモ

1. 24 2羽 浅川 (浅川橋下流側120M)

小沢礼子, 節子

(4) ミコアイサ

3. 6 1羽 浅川 (一番橋～多摩川合流)

湯原直彦

竹沢ひろみ

3. 希 少 種

- (1) カンムリカイツブリ
 5. 3 夏羽♀1羽 浅川 (浅川橋と暁橋の中間) 榎沢 務
 [注] 関連は別掲 田中英吉
- (2) ア マ サ ギ
 4. 25 1羽 浅川 (中央高速架橋上流側養鶏場の木)
 北平, 福島, 小池
- (3) オ オ タ カ
 1. 9 1羽 多摩川 (浅川合流付近) 阿江範彦他3名
 1. 10 1羽 浅川 (多摩川合流付近) 阿江, 谷井正剛
 2. 6 1羽 北浅川 (市役所恩方支所北側の山)
 今井達郎他2名
 2. 21 2羽 浅川 (松枝橋-鶴巻橋) 福島, 清水, 北平
 3. 6 1羽 " (陵北大橋-松枝橋) 河村道寛, 洋子
 4. 11 1羽 " (松枝橋-鶴寛橋) 公開探鳥会
 4. 18 1羽 " (一番橋付近) 粕谷和夫
- (4) ツ ミ
 6. 12 1羽 北浅川 (夕焼け橋付近) 今井、関根、馬場
- (5) ハ イ タ カ
 1. 10 1羽 浅川 (陵北大橋-松枝橋) 河村夫妻
- (6) ノ ス リ
 H. 4. 12. 30 1羽 多摩川 (八王子市高月浄水場) 湯原、竹沢
 2. 28 1羽 八王子市小津 (砂利採取場) 川上 晃
- (7) ハ ヤ ブ サ
 1. 9 1羽 多摩川 (浅川合流付近) 阿江他3名
- (8) ク イ ナ
 4. 17 1羽 多摩川 (浅川合流付近) 阿江、馬場
- (9) パ ン
 H. 4. 12. 30 1羽 (幼) 多摩川 (八王子市高月浄水場) 湯原、竹沢
 4. 10 1羽 片倉城跡公園 (住吉沼) 大関、小池
 4. 30 1羽 浅川 (長沼橋下流側滝合小付近) 山崎悠一
 " 久美子
 6. 19 1羽 多摩川 (浅川合流付近) 阿江、馬場

- (10) ケ リ
5. 20 1羽 浅川 (松枝橋下流側500M川岸) 河村洋子
- (11) タ ゲ リ
2. 14 1羽 浅川 (ふれあい橋下流側) 定例探鳥会
- (12) ハ マ シ ギ
4. 30 2羽 浅川 (長沼橋下流側滝合小付近) 山崎夫妻
- (13) アカエリヒレアシシギ
5. 15 1羽 浅川 (暁橋-大和田橋水管橋付近) 小山万太郎
田中英吉
- (14) カ ッ コ ウ
5. 29 1羽 浅川 (浅川大橋-大和田水管橋の枯木) 榛 沢
6. 18 1羽 " (中央線鉄橋付近の大木の梢) 川 上
- (15) ホ ト ト ギ ス
5. 30 2羽 大垂水峠付近 川上他3名
6. 9 1羽 八王子市グリーンタウン 高尾団地隣接の山 今 井
6. 12 1羽 北浅川 (大沢橋-陵北大橋) 今井、関根、馬場
6. 19 2羽 大垂水峠付近 川上他3名
6. 27 1羽 グリーンタウン 高尾団地隣接の山に住着く 今 井
- (16) アオバズク
5. 4 2羽 浅川 (浅川橋、極楽寺前の広告塔) 粕 谷
[注] 関連は別掲
- (17) ヤ マ セ ミ
3. 6 1羽 北浅川 (東大沢橋下流側150M) 今井、馬場
- (18) ア オ ゲ ラ
1. 12 1羽 片倉城跡公園 大 関
1. 17 1羽 長沼公園 馬場裕、百合亜
2. 12 4羽 同 上 馬場夫妻
2. 22 1羽 小宮公園 榛沢、田中
4. 4 1羽 八王子市元八王子 (松子舞団地) 関根夫妻
4. 10 1羽 片倉城跡公園 大関、小池
4. 19 2羽 小宮公園 田中、榛沢、本島
5. 8 1羽 片倉城跡公園 大関、小池
- (19) ア カ ゲ ラ
1. 17 1羽 長沼公園 馬場夫妻
3. 6 1羽 下恩方松竹 (栗林) 今井、馬場

(20)	イワツバメ			
5. 1	1羽	北浅川 (松竹橋下流側恩方1小前)	今井、馬場	
(21)	ビンズイ			
1. 20	2羽	小宮公園	田中、榛沢	
1. 31	1羽	八王子市役所横 (土手の桜の木)	登坂久雄	
2. 12	2羽	長沼公園	馬場夫妻	
3. 6	1羽	北浅川 (河原宿大橋付近)	今井、馬場	
3. 17	3羽	湯殿川 (白旗橋-時田橋)	三富夫妻	
(22)	タヒバリ			
4. 14	2羽	小宮公園	古山 隆	
(23)	キレンジャク			
3. 28	1羽	浅川 (松枝橋-鶴巻橋左岸の林)	福島他4名	
(24)	ミソサザイ			
3. 21	1羽	寺沢川 (八王子市堀の内)	馬 場	
4. 23	2羽	高尾山6号路山頂下100m	川 上	
(25)	ルリビタキ			
H. 4. 11. 22	♂1羽	小宮公園	湯原、竹沢	
2. 22	1羽	小宮公園	田中、榛沢	
3. 21	♂1羽	寺沢川 (八王子市堀の内)	馬 場	
(26)	トラツグミ			
3. 14, 20	1羽	八王子市暁町 (栗林の丘)	本島てるみ	
3. 20	1羽	小宮公園	本 島	
(27)	アカハラ			
2. 22	1羽	小宮公園	田中、榛沢	
2. 28	1羽	小宮公園	小沢礼子	
4. 10	1羽	浅川 (大和田橋-長沼橋)	門口夫妻、川上	
5. 1	2羽	北浅川 (河原宿大橋左岸の樹上)	今井、馬場	
5. 8	1羽	片倉城跡公園	大関、小池	
(28)	シロハラ			
1. 10	1羽	片倉城跡公園	三富恒男	
2. 6	1羽	北浅川 (深沢橋付近)	今井、関根、馬場	
2. 12	1羽	片倉城跡公園	大 関	
2. 22	1羽	小宮公園	田中、榛沢	
3. 13	1羽	片倉城跡公園	大関、小池	
3. 22	1羽	小宮公園	田中、榛沢、本島	
4. 10	1羽	片倉城跡公園	大関、小池	

- (28) シロハラ (続き)
4. 19 1羽 小宮公園 田中、榛沢、本島
5. 1 1羽 北浅川 (河原宿大橋左岸の樹上) 今井、馬場
5. 4 1羽 八王子市小津 川 上
- (29) ヤ ブ サ メ
6. 13 声 松竹神社 (八王子市下恩方) 粕谷他3名
- (30) キクイタダキ
2. 12 3羽 長沼公園 馬場夫妻
3. 27 2羽 " "
4. 18 2羽 " "
- (31) オ オ ル リ
4. 23 1羽 高尾山6号路山頂下100m 川 上
5. 1 1羽 北浅川 (大沢橋-松竹橋) 今井、馬場
- (32) サンコウチョウ
5. 19 ♀ 1羽 片倉城跡公園 三 富
5. 30 10数羽 八王子城跡 粕谷夫妻
- (33) コ ガ ラ
- H. 4. 12. 30 数羽 多摩川 (八王子市高月浄水場前) 湯原、竹沢
1. 17 1羽 長沼公園 馬場夫妻
2. 12 4羽 " "
- (34) ヒ ガ ラ
3. 27 1羽 長沼公園 馬場夫妻
- (35) マ ヒ ワ
3. 25 3羽 浅川 (浅川橋下流側) 登 坂
3. 25 2羽 " (") 小沢礼子
3. 29 9羽 " (") 小沢礼子、芝朋子
4. 11, 14, 17, 18 約60羽の群れ 小宮公園 古 山
- (36) ウ ソ
2. 12 ♂ 3 ♀ 3羽 長沼公園 馬場夫妻
- (37) コブハクチョウ
1. 28 1羽 多摩川 (滝山城跡下) 三 好
2. 27 1羽 " (") "
- (38) バ リ ケ ン
1. 9 1羽 (白色型) 多摩川 (浅川合流付近) 阿江他3名
- (39) ウスユキバト (カゴ抜け)
- H. 4. 11. 20 1羽 浅川 (暁橋上流側) 湯原、竹沢

- (39) ウスユキバト (続き)
 6. 13 1羽 浅川 (浅川大橋の下) 定例探鳥会
- (40) カオグロガビチョウ
 4. 23 3羽 浅川 (松枝橋下流側400mm右岸の木) 河村洋子
 [注] 関連は別掲
- (41) ベニスズメ
 6. 20 1羽 浅川 (松枝橋-鶴巻橋) 福島、小池、大関

4. 繁殖, 行動等

- (1) チョウゲンボウ (繁殖)
 1. 20 2羽 日野市さくら町 (コニカ工場内で交尾)
 ※ 昨年、この場所で営巣、6月上旬に3羽
 ヒナが巣立った。 木村信幸
- (2) コチドリ (繁殖)
 4. 17 2羽 浅川 (長沼橋下流側滝合小付近) 山崎夫妻
 5. 16 2羽 " (八王子市役所側鶴巻橋上流100m)
 抱卵中 三好他5名
- (3) イカルチドリ (繁殖)
 4. 18 成鳥2羽とふ化直後のヒナ4羽
 浅川 (浅川橋上流側の砂れき地) 古山
- (4) キジバト
 H. 4, 12. 21 1番い 日野市三沢 (交尾) 三富
- (5) カワセミ (繁殖)
 4. 4 2羽 浅川 (八王子市役所付近)
 土手で巣作り (穴掘り) 行動を観察、その後中止。 福島
 5. 4 2羽 浅川 (浅川橋-暁橋)
 捕らえた魚を小宮公園の方へ盛んに運ぶ。 粕谷
- (6) キセキレイ (繁殖)
 巣立ち 2回 第1回 (4~5月) 第2回 (6~7月)
 八王子市檜原町、自宅の庭 木村晴美
- (7) サンコウチョウ (繁殖)
 6. 27 ヒナ4羽 八王子市小津町 関根夫妻
- (8) ヤマガラ (繁殖)
 4. 25 2羽がエサを運ぶ、片倉城跡公園の巣箱 門口夫妻

- (9) シジュウカラ (繁殖)
 H. 5. 6-7. 巢材を運ぶ 7月9日現在巢立ち間近い
 八王子市榎原町、自宅の庭の巣箱 木 村
- (10) オナガ
 6. 1 営巢1 湯殿川 (八王子市片倉町国道16号脇) 粕谷他3名
- (11) シメ (行動)
 2. 23 5羽 八王子市元八王子 (自宅庭のエサ台
 のヒマワリの種を食べる) 関 根
- (12) ゴイサギ (コロニー)
 1. 10 12羽 川口川 (中央高速架橋付近) 北平、三好
 [注] 関連は別掲
- (13) メジロ (密猟)
 3. 6 寺沢川上流 (捕獲用鳥籠1個) 粕 谷

5. その他

- (1) タヌキ
 2. 28 1頭 八王子市上恩方 川 上
- (2) キツネ
 4. 14 1頭 八王子市恩方 (夕焼け関所南側、たかともめ橋
 より西へ約300m進んだ林道) 川 上
- (3) ヒミズ
 5. 30 1頭 (死体) 八王子城跡城山川林道 粕 谷
- (4) カジカガエル
 4. 4 鳴き声 北浅川 (河原宿橋付近) 今 井
 5. 1 " " (深沢橋付近) 今 井
 5. 6, 15 " 南浅川 (案内川・高尾山口駅前) 粕 谷
 6. 12 " 北浅川 (河原宿橋付近) 今 井

注：鳥信として多数寄せられた内、ゴイサギ、ハシビロガモ、チョウゲンボウ、タシギ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、コゲラ、エナガ、ヤマガラ、カケスは割愛させていただきました。

[お願い] 会報カワセミ No. 10号の42頁に掲げている「お願い」の要点 (6重点情報と6項目) を再読され、今後の「鳥信」を寄せられますよう、お願いします。



カオグロガビチョウの出現

カオグロガビチョウは「平地の低木や竹藪などにおいて、姿は見えなくても、鳴き声が今まで聞いたことがない、非常に賑やかな鳴き方をする鳥」で、1980年代から東京の多摩地方で観察されています。

今までに寄せられた本会の会員による観察記録は次の通りです。

- | | | |
|--------------|--------------------------------|----------|
| H3年3月下旬～4月上旬 | 浅川（松枝橋下流側右岸）で、いづれも2羽、4～5回観察した。 | |
| 4年3月下旬～4月上旬 | ピョピョと力強く鳴いていた。 | 河村洋子 |
| 4年10月4日 | 1羽 北浅川（陵北大橋上流側竹やぶ） | 馬場 裕、百合亜 |
| 5年4月23日 | 3羽 浅川（松枝橋下流側） | 河村洋子 |

全体的にデータが不足していますので、この鳥に関する過去の記録がありましたら「鳥信」としてお知らせ下さい（ねぐらや営巣地を発見した場合は早めにお知らせ願います）。

「注」

会報「かわせみ」No. 10の37頁に掲載した「マガン」について、その後、鳥信として寄せられた情報は、11月2日 浅川（中央高速道～養鶏場付近：山崎悠一）及び11月16日 浅川（鶴巻橋上流側：湯原直彦）でした。

なお、本件は日本野鳥の会研究センターの「野鳥記録検討会」に記録を提出したところ、公式記録ではなく、参考記録ということになりました。

参考記録になった理由は、マガンは動物園等で飼われており、又1羽だけで飛来したのを考えると、カゴ抜けの可能性が考えられるということでした。

川口川でサギのコロニー発見

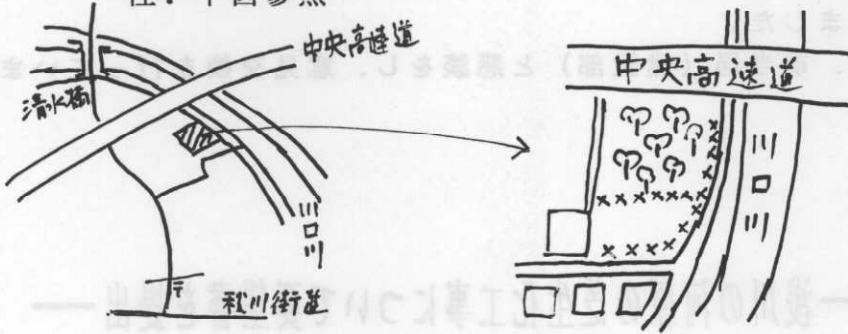
平成5年1月10日に行った冬鳥の一斉調査の際、川口川（明治橋－浅川合流）の担当チーム（三好、北平）がゴイサギの群れを発見した。その後、北平会員が追跡調査した結果、これはコサギとゴイサギで構成される冬期の集団ネグラであることが判明した。

1. 場所

川口川：中央高速道東側の林
注．下図参照

2. 種類

ゴイサギとコサギの2種



3. 数

[日 時]	[天候]	[コサギ]	[ゴイサギ]	[注]
93. 1. 10	晴	0	1 2	水鳥カウントの時
11	晴	1 0	0	(A.M 9:00)頃
13	晴	9	2	※：1月10日以外
18	曇り	1 1	4	はすべて夕方の
20	晴	4	1	日が落ちる頃
22	晴	8	9	
26	曇り	6	4	※：2月末から3
28	晴	8	2	月にかけて殆ど
2. 1	晴	6	0	見られなくなっ
3	晴	6	2	た。
5	晴	6	0	
9	晴	1 2	6	
17	晴	6	9	
19	晴	9	0	
3. 25	晴	1	0	

——寺沢川改修について要望書を提出——

八王子市が行う寺沢川の改修工事については、地元をはじめ他の自然保護団体から「自然環境の破壊」につながるような改修は極力避けて欲しいという意見、要望が市当局に出されています。当カワセミ会でも現地調査を行ったところ、当川の上流部でカワセミの営巣が確認された他植物、昆虫、魚類も自然が豊富な河川であることが判りました。

そこで、去る1月11日粕谷会長他2名の会員が八王子市役所を訪れ、北海道における行政の対応事例を示し、カワセミの保護について要望書を提出しました。

その後、市当局（建設部）と懇談をし、意見交換を行っています。

——浅川の河原の芝生化工事について要望書を提出——

八王子市元横山町、田町に接する浅川右岸側の河川敷きに分布しているアシ原（ツルヨシ）の一部が、平成4年秋頃から八王子市公園課により刈り取られ、芝生に植え替える工事が行われました。

このアシ原は、市街地内で野鳥、昆虫等の貴重な生息環境となっておりました。

当会では、自然環境保全の見地から出来れば現状回復をして欲しい旨要望書を市当局へ提出しました（平成5年1月）。

その後、市側から「本工事は地元住民の要望により行ったもので、現工事範囲を越えてアシ原を削り取ることはしない」と回答がありました。芝生養成中で既に芝の間からツルヨシが再生してきております。

芝生維持の為に支出される経費負担（税金）等を考えるならば、本来の殖生に基づく緑の回復、自然環境の復現こそ大切ではないかと考えられますので、再度要望をしていきたいと考えます。

八王子市の大谷、宝生寺地区が緑地保全地域に指定される



東京都が指定する緑地保全地域は「東京における自然の保護と回復に関する都条例」に基づいて、武蔵野の雑木林等の多摩地区に広がる良好な自然地を対象に指定し、保全計画によって地域内の自然を守り育ていこうという制度です。

本制度は昭和49年に発足し、昨年までに19地域指定されており、本年度3地区が追加指定され、その内の2地区が標記のものです。

「大谷地区」は近くに小宮公園があり、比較的若いコナラやクヌギに覆われた北向きの斜面で、住宅地と近接した貴重な樹林地です。

「宝生寺地区」は浅川と川口川に挟まれた丘陵の先端部に位置するやや急峻な谷を含む雑木林です。

今回指定された地域は、大半が民有地ですが、指定に協力された地主に迷惑にならない範囲で自然観察等に利用することができます。

八王子カワセミ会としても、東京都緑の推進委員八王子の会と協力して、このような場所で探鳥会を行う等の活動を通して当保全計画に基づく地元の緑地保全に少しでも協力できればと思います。（文責：粕谷）

== 浅川流域身近な自然の散策絵図 ==

今般、T A M Aらいふ21協会から標記の地図が発行された。新聞紙見開きの大きさで、表は八王子市、日野市にまたがる浅川全流域のカラー鳥かん図、裏には浅川の自然環境、多自然型川づくり等の解説が載っている。

この地図の作成に当たり、写真の提供等で当会も協力しました。

浅川流域全域を一つにまとめた最初のマップであり、支流名、丘陵名、台地名、湧水地等の位置関係が分かりやすく、また富士山がきれいに見える場所、化石が観察できる所、谷戸の風景がある所等主要ポイントが示されている。

この地図は、八王子カワセミ会設立10周年記念事業の一つとして行なわれるバードソン探鳥会の参考資料として有効であり、本年12月4日に開催予定のバードソン予行演習に参加する会員には1部ずつ配布できるよう手配中であります。

多摩川・浅川合流点

自然環境保全計画策定される



日野市（建設部水路清流課）は平成5年3月、標記計画を策定した。計画対象地域は、自然環境豊かな地域であり、建設省により生態系保持空間として位置づけられ、また日野市も重要自然地域に指定しているが近年当河川敷き内でオフロードバイクの走行、ラジコン飛行機の操縦等がおこなわれ、良好な自然環境が脅かされてきた。

日野市は平成3年度に計画策定地域の現況調査を行い、翌4年度には調査に協力した市民と学識経験者等による「多摩川・浅川合流点自然環境調査検討会議」を開催し、その意見を聞き本計画を策定したもので、八王子カワセミ会も現況調査に協力し、検討会議にも参加した。

今般策定された計画（日野市多摩川グランド付近の堰から浅川合流迄の多摩川右岸を中心とする約50haの地域）の内容は、多摩川の堤防上の日野市占用区域内（現況サイクリングロード）の河川敷側にロープ柵を、またサイクリングロード上に車止めを設置し、オフロードバイクの進入を防ぐことを骨子とし、河川敷き内で散策や自然観察、釣り等により地域住民が自然に触れ会える場を確保しようとするものである。

今後、この計画の一日も早い具体化が期待される。

また、日野市は本地域の保全に対する市の考え方や市民の意識改革、自然への認識を深めていくための啓蒙活動として自然観察会の開催等を考えており、その一環として探鳥会を行うような時には、本会にも協力要請がなされると思われる（この地域は、本会が行っている毎月1回の野鳥定期カウントの内の1地域「多摩川（浅川合流付近）」である）。

なお、八王子市側の浅川河川敷においても、将来このような地域が設定されることが望まれるところである。

「水鳥探鳥会」に参加して



本島 てるみ

2月28日(日)、小雨混じりの朝、7時にJR八王子駅に集合。
今年第1回目の遠出探鳥会で、目的地は大井野鳥公園と葛西臨海公園。

9時、野鳥公園に到着、頭上をオナガ、ヒヨドリ、ハシブトカラス、進む路上でアオジ、カワラヒワ、ツグミ、キジバトが次々と私達を歓迎してくれた。この公園は「野鳥のオアシス」として東京湾の埋立地に自然に近い形態で造られ、淡水池、観察小屋、広場、ネイチャーセンター等がある。

主役の鳥達を静かに観察できるよう「覗き窓」「望遠鏡」が備えられている。

初心者の私は、鳥のイラストがあるので、一つ一つ確認しながら探鳥出来る安心感があった。また、レンジャーから親切な説明を受けられたのも大きな魅力であった。

淡水池では、オオバン、バン、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、アオサギ、タシギなどの多くの水鳥が観察できた。お目当てのセイタカシギも、暖かいセンターの中からじっくりと観察できた。ピンクの細いしなやかな長い脚を「く」の字に曲げて、長いくちばしでエサを捜して歩く姿は、まるで優雅な貴婦人のようで、うっとりで見惚れてしまった。

小雨も上がり、春の陽差しの昼下がり、明るいヒバリのさえずりに見送られて次の目的地に向かう。

日の出栈橋から約45分で目的地の葛西臨海公園へ着く。

若いカップルや家族連れで賑あう公園内、波上に長い黒帯を浮かべた様なスズガモの大群。暫くすると、その大群は一斉に飛立った。

一本の太い帯が空中に舞い上がる様な光景に「ワアー」「スゴーイ」と歓声を上げて、皆ただ見入っていた。その数、数万羽?。暫くは興奮覚めやらず呆然としていた。

探鳥会の締め括りを飾るダイナミックな光景だった。

一方又、目の赤いカイツブリをめぐって熱く沸いた? 論議は、結局ハジロカイツブリで決着した。

初参加の遠出探鳥会で、初めて観た鳥は4種、どの鳥も私には大変印象に残った鳥だった。

諸先輩方の観察力の鋭さ速さに敬服し、いつも丁寧に説明して下さり

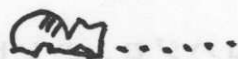
とても学ことが多いです。

たくさんの野鳥を観察でき、楽しい一日を過ごせました。 どうもありがとうございました。

大井野鳥公園：カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ
ハシビロガモ ホシハジロ パン オオパン タシギ
スズガモ セイタカシギ セグロカモメ イソシギ
ヒバリ など 43種。

葛西臨海公園：ハマシギ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ
ヨシガモ スズガモ キンクロハジロ ヒドリガモ
など 26種。

参加者： 14名



浅川全域歩く記

粕谷和夫

平成5年4月18日、北浅川の下恩方大沢橋から日野市の多摩川合流まで、浅川本流に沿って一気に歩いてみた。

ここは全延長約22Kmの距離があり、ここを7区間に分けて当会の会員が毎月分担して、野鳥の定期カウントを行っている所である。また、毎月の定期探鳥会も、この区間の何処かで行っており、各区間別には今まで何回も歩いているが、全区間を通して歩いたのは初めてであった。

下恩方の大久保までバスで行き、大沢橋をスタートしたのは午前8時35分、12時に浅川橋までたどり着き、橋のたもとの梅屋亭で腹ごしらえをした上、再び歩き出し、多摩川合流点到着は午後3時40分、約7時間の長旅であった。

この日は、全身が汗ばむ暖かい日で、上流ではカジカガエルの声を聞き、ハクセキレイがトンボを捕らえて食べるころや、ヤマブキの花を楽しんだが、下流の一番橋辺りまで来た時は疲れ果ててしまった。

ここで最後の休みを取っていると、水辺のコガモが急に一斉に飛び立ち、2羽のカラスが騒ぎたて始めた。

何事が起こったのかと思い見回すと、オオタカの出現である。
これを見て元気を取り戻し、何とか最終地まで辿り着くことが出来た。
認めた野鳥は、36種。私の選んだベスト4は、①数の多かったアオジ
(上流)とコガモ(下流)②オオタカの出現③カジカガエル(上流)
④到る所で咲いていた関東タンポポの花です。

今年の冬季に、もう一度歩いてみたいと思っています。

その時は、一緒に歩きませんか。上流から下流への変化の状況が
よく判ります。



カンムリカイツブリ観察記

田中英吉

平成5年5月3日、浅川は暁橋上流の川の中でカンムリカイツブリを
1羽を発見した。

5月22日まで、その場所にいたが、25日には水管橋下流で確認、27日
と28日には大和田橋下流へ移動、29日には再び水管橋へ移り、6月に入
ってから、10日には又大和田橋下流で姿を確認し、12日には水管橋下流
へ移動するといった具合で、21日から30日の間は其処にいた。しかし
7月初めの大雨で浅川が増水し、それ以降姿を確認していない。

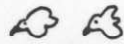
その間、6月7日には魚を獲るのを観察、大和田橋下流へ移動してい
る時には、川岸で工事用の機械が動き廻る音など気にしておらず、15日
17日、19日には、何回となく潜水するのを観たが、魚を獲ったのは確認
出来なかった。

6月21日から30日の間には、小山万太郎氏が魚を獲るのを何回も観察
したそうです。

最初に発見した頃、多い時には4～5人のカメラマンが居たが、水管
橋に移動した頃には、1人のカメラマンが写真を撮っているのを、1回
見たきりで、その後は誰も見向きもしなくなった。

また、他の野鳥と特に争っている様子も見られず、1羽だけで川の流
れの石の間でじっとしていることが多かった。

以上、小山、斎藤高昭、榎沢務の会員諸氏にも協力いただきまとめた
観察記録であります。



1993. 4. 24.

谷津干潟探鳥会に参加して

曇り、風強し 小澤礼子



◆午前九時過ぎ、西船橋駅に到着。しばらく歩くと、片面を高層マンションに囲まれた谷津干潟が見え出しました。干潟の向こうには海が見えると思っていた私には、えっ、これが谷津干潟といささか自分の目を疑いましたが、まぎれもなく、そこは谷津干潟でした。しかし、人工的な景色にはがっかりしたものの、東京湾に残されたわずかな干潟にはたくさんの渡りの途中のシギが羽を休めていました。

◆赤い足に白と黒の羽のバレリーナのようなセイタカシギ（以前は大変珍しい鳥だったそうです）。歌舞伎役者の隈取りのような顔をしたキョウジョシギ、首筋から胸にかけて引かれた黒い線が印象的だったメダイチドリ。シックな色合いのダイゼン。見ていると、時を忘れるほどでした。

◆オオソリハシシギの少し上に反り上がったみごとな長い嘴に対して、ホウロクシギの下に曲がった長い嘴は、餌の採り方の違いにあるのでしょうか。ホウロクシギが長い嘴を泥の中にさして上手にカニを食べていたので、オオソリハシシギの餌や餌の採り方を調べてみようと思いました。

◆強い風を避けながら、昼食をとっていた観察堀の窓から、スズメくらいの大きさのかわいいトウネンがあちこちに歩いていました。トウネンという名前は当年生まれのように小さいことからついたそうですが、オーストラリアから北極までの1万kmにもおよぶ大旅行をするのだそうです。そのエネルギーがこの鳥のどこにあるのだろうか、つくづく考えさせられました。

◆たくさんのシギやチドリの仲間を間近に見ることができて、それだけで満足の探鳥会でしたが、最後に、今日のメインとも言うべきツクシガモと出会うことができました。何日か前から谷津干潟に迷いこんできたというニュースで、この日は、ツクシガモ目当てのカメラマンにも何人も会いましたが、今日はいないのではないかと悲観的な話をしていました。ですから、遠くから山崎さんがツクシガモを見つけた時は、みんな大喜び。もっと良く見えるところへと駆けて行きました。緑色光沢のある黒、白、茶の体に、赤い足、そして、赤い嘴の基部には繁殖期特有のこぶを持った、色鮮やかなコントラストのカモでした。ピロードのような毛並みには高貴さが漂い、周りのカモ

達を寄せつけない美しさがありました。九州（筑紫）で見られるツクシガモに出会うことができるように偶然にもこの日を設定して下さったかわせみ会の幹事さん達に感謝、感謝の探鳥会となりました。

(谷津干潟で観察された鳥) ……ヒドリガモ、オカヨシガモ、カルガモ、ホシハジロ、コガモ、ハシビロガモ、ツクシガモ、セイタカシギ、キョウゾシギ、メダイチドリ、シロチドリ、ダイゼン、ムナグロ、キアシシギ、ハマシギ、オオソリハシギ、チュウシヤクシギ、トウネン、ミユビシギ、コチドリ、ホウロクシギ、コサギ、ダイサギ、ユリカモメ、コアジサシ、カワウ、ツグミ、ムクドリ、ヒヨドリ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイズメ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、タヒバリ、ハシボソガラス、キジバト、カワラヒワ、トビ、ドバト、アヒル、……計43種

ベスト5 (ツクシガモ、オオソリハシギ、セイタカシギ、メダイチドリ、キョウゾシギ)

探鳥俳句

一九九一年一月十七日

初めてかわせみ会の探鳥会に参加

青鷺や霜降る藪に瞑想す

一九九一年二月

家路を急ぐ時、浅川橋の上で

光り染み落日を追う長元坊

一九九一年五月

多摩川にて
牛蛙半眼にして座禅組む

遠河鹿雲も静止し多摩川原

一九九二年五月三日

木下沢にて
天狗蝶一羽の翳の沢遊び

一九九二年十月

南浅川にて
鴨渡り欄干拭ける川辺の婦人

葛の原我も溶け入る川風に

小澤節子

一九九三年三月二十八日

青げら、
山翡翠を見に秋山川へ

春陰を渡り湖畔のドラミング

山翡翠のデュエットキャッチ

春の湖

一九九三年五月五日

木下沢にて
大瑠璃に逢いに辿るや

木下沢路

一九九三年五月五日

浅川にて
青嶺渡る一羽や旅の冠鳩

一九九三年五月三十日

中野橋
葭切の声紅や葦の天

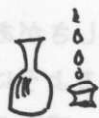
帰路急ぐ雉子やほろると

芦の間を





野鳥か酒か



高橋 紘

探鳥会の前夜、5年ぶりにロンドンから帰国した同僚と酒を飲んだ。かねてからの約束で、翌日が早いことも、十分念頭に置き、飲み始めた。

話はずみ、酔いが回わるにつれて、つい深酒になってしまったのだ。相変わらず、意地が汚いのである。「東名」がふだんより混んでおり、帰宅は午前1時をはるかに過ぎていた。

午前5時起床。酒のせいでぐっすり寝たものの、酒精分は身体の端々に残留している。カワセミ会は初めての参加だし、門口さんとは電話で話したものの、初めてお目にかかる方々ばかりである。酒臭いのでは、具合が悪い。

冷蔵庫を開けて牛乳をゴクリ、電車の中では仁丹をかじる。乗り換え駅ではホームの水飲み場に駆け付けた。東武浅草駅では、ポカリスエットとウーロン茶を立て続けに飲んだ。

午前7時10分前、天気予報はよくなかった。車中から見ても曇り空。日光駅で降りても相変わらずだったが、バスがいろは坂にさしかかる手前から、徐々に日が射しはじめた。10時半、赤沼のバス停で降りる。太陽が顔をみせ、あたりは明るく輝いていた。

予報は完全にはずれた。身仕度を整えて、いよいよあこがれの戦場ヶ原に乗り出す。バスの中から六分咲きの山桜を見たが、標高千四百メートルのこの辺りは早春の風情である。遠くの山は霞み、麓の樹林帯は薄紅、薄緑、薄茶、薄黄の木々が織りなしている。

浅い春。景色は淡い色に覆われている。東山魁夷画伯の日本画の世界。男体山、白根山には、まだたくさん雪が残っている。唐松林を抜けるが、まだ芽は固く閉ざしたままだ。ゴジュウカラが上ったり降りたり、黒ベレーのコガラ、見慣れたシジュウカラも、清冽な環境の中では気品がある。湿原はあちこちで乾燥している。入山者が増したからだろうか。ゴールデンウィーク直後の週末のせい、ハイカーは予想よりずっと少ない。

湯川に沿って自然研究路を進む。きれいな、かん高いさえずりが聞こえる。粕谷さんが「アオジのさえずりです」と教えてくれた。

アオジといえば、平地ではヤブにかくれてチッチッという鳴き声が耳慣れている。シジュウカラもアオジも日光まで来れば、結構な振る舞いでサービ

スしてくれるのだろうか。ミソサザイが、例によって“精一杯”といった風に声を振り上げる。キセキレイが、チッと行って川面を渡っていった。

ヨシの原野が広がる。風にゆったり揺らぐヨシのてっぺんに、キビタキがいる。横っ飛びしたとき、背に白い紋がくっきり見える。喉から胸元にかけて黄色味がかった朱色。オオジシギが突然ジュリーと舞い上った。

青木橋に立派な木のベンチとテーブルがあり、昼食になった。粕谷さんが「どうですか」とウイスキーをすすめて下さる。「いや、ありますから」、「それはあとでやればいいでしょう」、「ええ、まあ」という具合で、まず一杯、残雪の冷気を含んだ風が、心地よく頬をうつ。それで一杯。またひんやりした風。勧められてまた一杯。甘いウイスキー、豊かな自然。

湯ノ湖の回りを歩いて湯元温泉南間ホテルに着いたのは、午後5時半すぎ。大きなホテルで、学校の林間学校やスキー教室などに使われているようだ。

南間ホテルは、今の天皇が戦時中疎開していた所で、終戦の“玉音放送”も、ここで聞いた。もちろん、当時の建物は取り壊されている。少し、お話すると。

太平洋戦争が始まったのは、1941年12月。翌年6月のミッドウェー作戦で海軍が大敗し、米海軍は太平洋諸島の日本軍の基地を次々に襲う。本土空襲が激しくなることを予想して学童疎開が始まり、学習院初等科5年の天皇も44年5月、静岡県、沼津御用邸にクラス全員で疎開した。

しかし、サイパン、グアム島が陥落し、7月、天皇は日光の田母沢御用邸に、級友は近くの金谷ホテルに移った。宇都宮が空襲を受け、45年7月、もっと安全な場所をとということで南間ホテルに入った。米軍の進攻に備えての“皇統護持”作戦だった。万一の場合、金精峠から更に逃げのびる案も画策されていた。天皇の帰京は11月7日だ。

“皇室ゆかり”はさておき、料金の割には結構な料理が並んだ。風呂もよかった。当然、宴会である。部屋に帰ってまた水割り、焼酎。

翌朝の探鳥会は、さぼった。ニューナイスズメを昨日とは違い、間近でみることができたという。朝食後、バスで午前9時15分光徳牧場入り口に着く。そこから戦場ヶ原の北を抜け小田代ヶ原を通過して竜頭ノ滝へ。ノスリが遠くの木に止まり、近くの木との間を往ったり来たり。ノビタキ、キビタキ、コサメビタキもたっぷり。

最後の最後、竜頭ノ滝に出た所でカワガラス。勢いよく流れる水しぶきを受けながら、大きな岩に巣があるらしく、出たり入ったり、プロミナ、双眼

鏡でのぞいていた私たちに、観光客が近寄ってきた。

このころから雲行きが怪しくなってきた。そしてポツリ、ポツリ。中禅寺湖でそばでもということになり、バスに乗る。降りたらたちまち雨。土産物屋でそばやビール。私は何人かと近くの自然博物館を見ました。

先着組は日光駅の待ち合い室で、また飲っている。それを見越してバスに乗る前、ウイスキーを1本買っておいた。それもたちまちペロリ。電車の中でかき集めたウイスキー、ビール、焼酎。ホームで水をくみ、またまた飲む。

別れ際に粕谷さんが宣うた。「いや、飲む人が一人増えてよかったよ」。昨日朝の酔いをさます努力などは、まったく徒労だったのである。

あれから2カ月。手元にあるのはバードリストだけだ。初心者の私は、探鳥の印象より記憶に残ったのは、酒のこと。ていねいな探鳥会をセットして下さった門口さん夫妻はじめ、ご一緒させていただいた皆々さまに、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

<確認した野鳥>

ウグイス	ヒガラ	メジロ	シジュウカラ
ミソサザイ	キセキレイ	アオジ	ハシブトガラス
カワセミ	トビ	アカゲラ	マガモ
コガモ	アカハラ	ハヤブサ	セグロセキレイ
カケス	モズ	エナガ	ゴジュウカラ
キビタキ	キバシリ	コガラ	センダイムシクイ
ノビタキ	キジバト	イワツバメ	キンクロハジロ
カワガラス	スズメ	ヨタカ	ニューナイスズメ
ヤマガラ	コサメビタキ	ホオジロ	アオゲラ
オオタカ	オオジシギ	ノスリ	ホオアカ
コゲラ	ハシボソガラス	ムクドリ	コブハクチョウ

以上 44種

<参加者>

粕谷和夫 柚木鎮夫 柚木育子 小沢礼子 山崎悠一 山崎久美子
高橋 紘 今井達郎 川上 恵 三富恒雄 川戸恵一 福島弥四郎
堀江禎子 門口一雄 門口裕子 15名



アオバズク (青葉木菟) 観察日記

(1993年5月4日～26日)

小澤節子・礼子

5/4 (火) 1日目	<p>アオバズク渡ってくる。</p> <p>夜9時過ぎ、粕谷会長宅より電話あり。 …浅川橋南側の滝本商事のビル屋上のアンテナにアオバズクが止まっているとのこと。… 早速出かける。粕谷会長が梅屋前のミニ花壇で待っていた。双眼鏡で覗くと、アンテナの左端にぼんやり黒いシルエットが1羽見えた。 時々、ライトに集まってくる虫を捕まえるために、大きく羽をひろげてふわっと飛んできては、また、アンテナの所に戻っていく。40分間に数回虫を捕まえるために飛んだ。 会長と別れた後、信号を渡ってもう一度角度を変えて見ると、シルエットが二つ見えた。一羽が飛び立つと、アンテナにシルエットが一羽残る。まぎれもなく二羽であることが確認できた。多分、二羽の番^{つがい}であろう。 この日から、この二羽の番が、渡り途中なのか、極楽寺に帰ってきたのか、しばらく観察することになった。</p>
5/5 (水) 2日目	<p>曇り、肌寒い かわせみ会の仲間が観察にくる。 PM. 7:40 関根、榛沢氏アオバズク確認。 PM. 8:00以降姿を見せず。</p>
5/6 (木) 3日目	<p>曇り、 PM. 7:25から30分程確認。アンテナの暗い部分に番で確認。虫を捕ると、また、アンテナに戻る。つつきあっているようで仲むつまじい様子が見られる。下から仰ぎ見ると、羽を広げた姿がライトに光って白く見える。 PM. 8:10 再び番で現れる。虫がライトに浮かび上がると、必ず飛び立って虫を捕まえる。10分程いてまたいなくなった。柚木御夫妻7時台から観察。 PM. 9:30過ぎに行ったが確認できず。</p>

5/7 (金) 4日目	曇り 時々ぱらっと雨 風強し P.M. 6:35からしばらく確認できず。 P.M. 7:13 ビルの看板の横から前を通り極楽寺の方へ飛んでいく1羽を榛沢氏確認。 P.M. 7:43 1羽が看板の前に現れ、数秒アンテナに止まり、すぐにいなくなる。帰宅。榛沢氏さらに観察続行。今日は風が強く、虫がないので、アオバズクは帰ってしまったのだろうか。
5/8 (土) 5日目	曇り 風強し A.M. 4:55 極楽寺方面から、ホーホーと7回程鳴く声が聞こえた。(自宅で母が聞く。) P.M. 7:15 榛沢氏観察に来る。 30分程いたが現れず。 今日も風が強い。アオバズクに会えない。
5/9 (日) 6日目	ぱらぱらと雨 風なし P.M. 7:40から10分間 いつもより遅く出かける。すでに2羽がアンテナに止まっていた。つきあっているように見える。求愛行動か? それから、交互に飛び、またアンテナに止まる。 近所のおばさんと梅屋さんの御主人といっしょに確認。 雨が降ってきたので、早々帰宅。
5/10 (月) 7日目	雨 風あり P.M. 7:25から30分ほど観察していたが、アオバズク現れず。風がありライトに虫も集まらなかった。
5/11 (火) 8日目	曇り 暖かい P.M. 7:10~50 観察できず。しかし、時折、虫が飛んでいる。大関氏に会う。 P.M. 8:10~8:30 アオバズク、番で現れるとの大関氏より連絡あり。 P.M. 8:50 観察に行ったが飛んでいった後だった。

5/12 (水) 9日目	快晴 P.M. 7:50~8:30 確認できず。(榛沢氏7:50前より観察。) *この日の朝5:40頃、近所の萩原さんが、アンテナの上にアオバズクを確認。身づくろいをしていたとのこと。
5/13 (木) 10日目 (金)	晴 28度 P.M. 7:30~8:05 観察できず。 P.M. 9:40 アンテナから飛び立つのを橋上から確認。梅屋側に4人の観察者あり。
5/14~26まで…午後7時~8時を中心に観察したが、アオバズクは観察できなかった。	

(観察を終えて)

5月4日から始めたアオバズクの観察の結果、二羽の番のアオバズクは渡り途中に立ち寄ったものと思われる。アオバズクはどこで繁殖・生息しているのだろうか。日本野鳥の会東京支部の機関誌7月号によると、アオバズクはこの20年で激減しているそうである。20年前には都心でも営巣していたのが、今年の繁殖期調査で、繁殖が確認されたのは葛飾区と町田市の2カ所とのこと。全国的にも減少の著しい鳥なので、今回観察したアオバズクの生息地が確認されることを願っている。

(最後に) たまたま近くに住んでいるということで今回観察する機会に恵まれ、貴重な体験ができました。しかし、観察時間が短くて役に立つ資料になっていないことをお詫び致します。

今日渡来 あおばずく ネオンの蔭に青葉木菟…… 5月4日

青葉木菟 十日宿りて 旅立てり…… 5月13日 節子



知っている方・教えて下さい! (シメのしめ飾り)

大関 豊

『バード・カービング』を始めて1年半位になります。当会員の小山さんの作品に触れたのと、又各地の「ビジターセンター」等にある野鳥の剥製の貧弱な姿を見たのがきっかけでした。カービングをやり始めて、今までいかに鳥の姿を見ていなかったか・・に気がつきました。そして、それからウォッチングの仕方に変化が生まれました。今までなら野鳥の判別ができれば、それで済んだのです。つまり個々の特徴点をすばやくつかんでとりあえず種別を判定し、あとは鳥のしぐさや動作などを適当に楽しむ・・そんな見方でした。又それで良かったのです。

ところが、いざ『カービング』を始めると何も解っていないのです。シジュウカラを例にとっても(頬が白っぽい・ネクタイがある・風切羽根に白い線がでる)位は解るけれども、細かい所(嘴の形は?長さは?色は?足は?尾羽は?三列風切の色具合?羽根のたたみ方? etc etc)となるとまったく記憶にないのです。つまりは一部分(特徴点)しか見ていなかったのです。それからです、変化が生じたのは。出来るだけ細かい所も観察する様、心がけてウォッチングをするようになりました。

そしてある日、今年も我が家の庭にシメがやって来ました。カワラヒワを押し退けて悠然とひまわりの種を食べています。これ幸い、じっくり見てやろうと、嘴から頭、胸、羽根と観察を始めました。シメは人影が解るのでしょうか、特にこちらを向き、周辺に気を配りながら食べています。羽根が見たいな!向こうを向かないかな!と思っているとヒョイと向きを変えました。しめしめと背羽根・三列風切・次列風切と観察して、オヤッと妙な事に気がつきました。次列~初列風切あたりの羽根が変なのです。めくれているような感じで、かといって整然とならんで模様があるのです。ちょうど「しめ飾り」のあの紙の様な畳み方で・・・。そういえば図鑑も何んかそんな模様が ~ と思い、図鑑を取り出し見てみると、ありました。図鑑とおんなじでした。

けれど、何故、羽根(多分、次列~初列風切羽根)を畳むと、あの「しめ飾り」の様な事になるのか?、いまだに解りません。単に羽根の模様だけではないのです。そうなる理由があるはずですので・・・

『どなたか知っている方がおりましたら教えて下さい!』

四尾連湖探鳥会



柚木 鎮 夫

6月5日～6日で一泊の探鳥会に参加しました。

2月の公開探鳥会に、カミさんに誘われるままに行き、その日の入会となりましたが、参加する度に新しい鳥に出会えるのが楽しみです。

6月5日は身延線の市川本町駅から四尾連湖まで歩きました。出発して直ちにコムクドリを見ることができ幸先良い出足でした。ただら坂の登りの途中では、いろいろと聞こえてくる鳥の声も、私には未だはっきり識別することが出来ませんでした。サンコウチョーのホイホイ・ホイやジュウイチの声を初めて聞くことが出来ました。

そして、サシバ、コルリも見ることが出来、当日は35種の鳥が確認されました。

四尾連湖畔・龍雲荘泊り。

6月6日は、朝食前に湖畔を一周し、19種の鳥を確認し、蛾ヶ岳へ登りました。鳥の声は聞こえてきますが、中々姿を見せてくれないなかでコサメビタキはバッチリと見られました。最後のきつい登りでは、頭上の木からツツドリの鳴き声が、いきなり聞こえてきてビックリ！

そして、頂上ではヒガラが待っていましたとばかりに可愛いポーズをとって私達を迎えてくれました。また、下りでは、カッコウの声を聞き托卵する4種の鳥が勢揃いしたことになり、26種が確認されました。

2日共、天候に恵まれ、楽しく参加させていただきました。

何分にも、まだ若葉マークのため、後について行くのが精いっぱいでしたが、これからもよろしく願います。

追記。夜コノハズクを期待したのですが、今年はまだ確認されていないらしく残念でした。

(ベスト6) コルリ、サシバ、コサメビタキ、ツツドリ、ヒガラ、
ジュウイチ

(参加者) 粕谷、今井、榛沢、田中、関根、山崎夫妻、大関、
三富、川戸、栗原、門口、熊坂、柚木夫妻

以上15名



大菩薩探鳥会に参加して



1993. 7. 5

小笠原 正顕・敏子

- 日 程 : 7月4日(日) 日帰り
- 集合場所・集合時刻 : JR高尾駅 6時10分
- コース・交通機関:
 - JR高尾駅-JR塩山駅 (往復) (中央線)
 - JR塩山駅-大菩薩登山口-仙石茶屋-上日川峠 (タクシー)
 - 上日川峠-大菩薩峠-雷岩-大菩薩嶺-丸川峠-裂石 (徒歩)
 - 裂石-JR塩山駅 (タクシー)

連日の梅雨空で気がかりだった天気が、前の日の午後から急速に回復し、美しい満月も出て、明日への期待に心がはずんだ。

7月4日午前6時にJR高尾駅に着く。すでに顔馴染みの何人かが集まっていた。6時15分に高尾発の電車に乗る。爽やかに晴れた空、緑溢れる車窓からの眺めを満喫し、同席の方達との会話も楽しく、7時24分に塩山駅に着く。北口に出て小休止する。どこからかコマドリの声が聞こえた。近くで飼っているらしい。間もなくタクシーに分乗して出発、やがて、つづらおりの山道にかかる。「もう1000米は登りましたよ」と運転手が言う。8時頃、上日川峠(長兵衛山荘)(1600米)に着く。絶好の登山日和である。澄んだ空気に思わず深呼吸する。後続車も到着し、参加者の確認と自己紹介を行う。参加者19名(女性8名)リーダー 門口さん。

10分程休憩して出発する。すぐに車道から分かれた山径を登り始める。ウグイスの音が絶え間なく聞こえ、コマドリの声も聞かれた。鳥の姿を追う目に木漏れ日が美しい。同行の皆さんは鳥の声を聞くだけでその名が判り、繁る木蔭に鳥の姿をいち早く見つけるなど、感心することばかりである。

ここまでの探鳥: ウグイス、コマドリ、コガラ、ヒガラ、クロツグミ、シジュウカラ

8時45分に福ちゃん荘に着く。小休止の後、さらに登り続ける。富士見山荘あたりで遥かに富士山を望む。山ひだに残る雪も美しく、思わずシャッターを切る。勝縁荘の近くでホトトギスの特徴のある声を聞く。道端にマイヅルソウが白い可憐な花を咲かせていた。

ここまでの探鳥: ホトトギス、ミソサザイ、メボソムシクイ(幼鳥)、コマドリ

10時過ぎに大菩薩峠(1897米)に到着し、記念撮影する。介山荘で小休止した後、尾根伝いに進む。左右に展望がひらけ、右手には丹波、小菅の山々、はるかに奥多摩湖が光って見えた。左手には南アルプス連峰、甲府

盆地、塩山市街などが望まれた。ここからは、八合目あたりに一筋の雲をたなびかせた富士山が美しく雄大な姿を見せていた。広々とした明るい稜線をさらに進む。鳥の声に望遠鏡を向けると、樅の木の梢にビンズイが一羽止まっていた。足もとには、ハクサンチドリのパイン色の花が美しい。健脚の皆さんに遅れまいと懸命に後を追う。親知らずの岩山近くで濃いピンク色の鮮やかな花を見つける。テガタチドリである。咲き誇るレンゲツツジを見ながら、避難小屋、賽ノ河原を経て、神部岩に向かう。大きな岩石の隙間に径を求めて縫うようにして登る。神部岩を越えると、しばらくの間、草原を思わせる眺めが続く。途中で、レンゲツツジ、満開のサラサドウダン、コナシの花などを見る。11時頃に漸く雷岩に辿り着く。ここで早目の昼食をとる。

11時55分に出発し大菩薩嶺に向かう。ほどなく木々に囲まれた小高い広場に出る。中央に大菩薩嶺(2056.9米)の標柱が建っていた。12時5分、遂にその頂上に到着した。一瞬喜びの声が上がる。皆んな集まって記念写真を撮る。間もなく出発して丸川峠に向かう。原生林に覆われた林間コースを下って行く。滑らないように踏みしめて下る道端には杉苔が繁り、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウなどが一面に咲いていた。ギンリョウソウも見つける。途中で珍しいウソのつがいが見える。50分ほど歩いて丸川峠(丸川荘)(1700米)に着く。レンゲツツジやキンポウゲの花が一際目立ち、蕾を持ったオオバギボウシ、ミヤマオダマキも見かける。再び林間コースを下る。険しい山径のため、いつの間にか先頭集団から遅れてしまう。思うように足が進まなくなる。ニコニコ峠と書いてある立て札を見かけたが、膝が笑うとはこのことか。ただ、ひたすら下る。

3時10分に漸く堰堤のある川岸に辿り着き、皆んなに追いつく。近くでオオルリの声が聞こえ、何人かが川原に降りて姿を追う。残念ながら私は見られず。そばで木苺を見つけて摘む。休憩後、川沿いの道を下り、雲峰寺の前を通過して、3時半頃、裂石に到着する、ここで鳥合わせをする。

ヒガラ、コガラ、ウグイス、クロツグミ、ミソサザイ、メボソムシクイツツドリ、ホトトギス、コマドリ、キクイタタキ、ウソ、ビンズイ、ルリビタキ、ヒヨドリ、コゲラ、トビ、シジュウカラ、ヤマガラ、カクスアカハラ、クロジ、オオルリ、計 22種

4時過ぎ、裂石からタクシーに分乗して塩山駅に向かう。4時20分頃に塩山駅に着く。しばらく休憩し、4時50分発高尾行に乗車。帰途に着く。車内でも楽しい話題に花が咲き、なごやかな雰囲気疲れを忘れる。

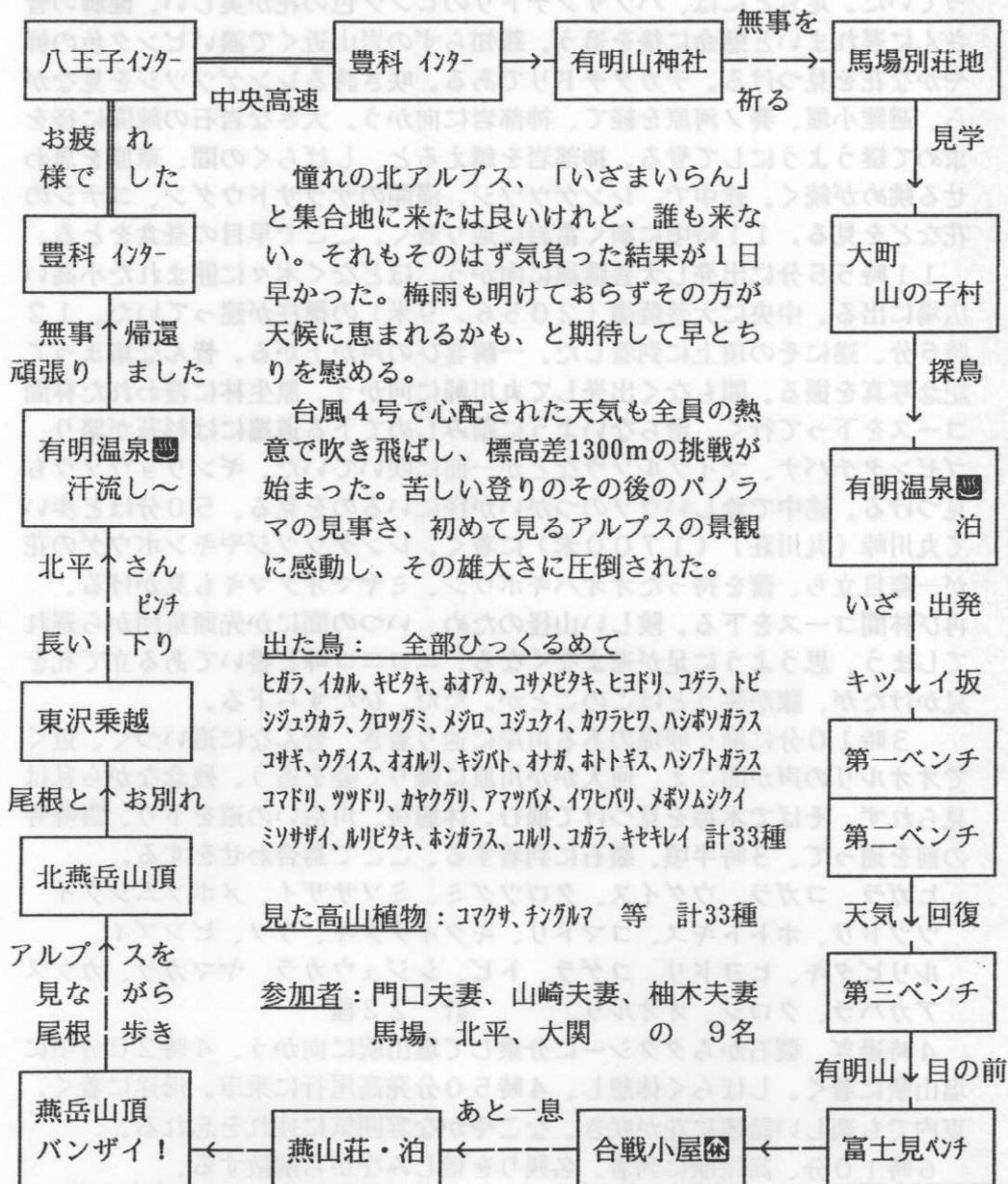
6時10分、高尾駅に到着。名残りを惜しみながら解散する。(翌5日は、朝から豪雨。まさに、たった一日の梅雨の晴れ間であった。)
*同行の皆様のおかげで、つつがなく探鳥登山が出来て、感謝の気持ちでいっぱいです。また参加したいと思います。

北アルプス燕岳 2泊3日探鳥会



大関 豊

'93年 7月24日~26日



憧れの北アルプス、「いざまいらん」と集合地に来たは良いけれど、誰も来ない。それもそのはず気負った結果が1日早かった。梅雨も明けておらずその方が天候に恵まれるかも、と期待して早とちりを慰める。

台風4号で心配された天気も全員の熱意で吹き飛ばし、標高差1300mの挑戦が始まった。苦しい登りのその後のパノラマの見事さ、初めて見るアルプスの景観に感動し、その雄大さに圧倒された。

出た鳥： 全部ひっくるめて
ヒガラ、イカル、キビタキ、ホオジロ、コサメビタキ、ヒヨドリ、コガラ、トビ、ジュウカラ、クワガタ、メジロ、コジュケイ、カラヒタ、ハシボソガラス、コサギ、ウグイス、オオルリ、キジバト、オガ、ホトトギス、ハシブトガラス、コマドリ、ツツドリ、カクグリ、アマツバメ、イワヒバリ、メボソムシクイ、ミソサザイ、ルビビタキ、ホシガラス、コルリ、コガラ、キセキレイ 計33種

見た高山植物： コマクサ、チングルマ 等 計33種

参加者： 門口夫妻、山崎夫妻、柚木夫妻、馬場、北平、大関 の 9名

(2763 m) 大天井・穂高・槍・鹿島槍etc 圧観・一同感激!

(2200 m)



感動！オオセツカ祭

八王子市：馬場 裕

ブルートレインから三沢駅で貸切バスに乗り換えた後は眠気を感じません。台風が能登半島沖の日本海を北東進し、やがて温帯低気圧に変わる頃、僕たち20名の一行は何とかもっている曇空に気を好くして、仏沼湿原近くの観察小屋を訪れました。7年ほど前、地元の人々と全国の有志の方々の熱意で建設された小屋は仏沼探鳥の基地です。鳥たちをはじめとする周辺環境調査の集合・休憩場所として、また「オオセツカ村」事務所としても不可欠な拠点となっています。10時前、トイレ休み後僕たちは湿原に向いました。湿原といっても、水田として整備された直後から減反政策で入植者のないまま荒廃し、現在ではヨシに代表される雑草やハマナスなどの北方系植物が新しい生態系の主役をなす原野になっています。最近でも、年間で200種を超える野鳥が観察され、ヒメクイナ、オオヨシゴイ、コチヨウゲンボウといった希少種も棲息しているそうです。見渡す限り背丈ほどに伸びた芦原の広大な湿原を、碁盤の目のように区切っている農道に沿って探鳥します。風は湿り気を帯び、今は夏のはずなのにと思うような寒さの中、遠くから賑やかな囀りが聞こえてきます。ガイド役である写真家の叶内拓哉氏の言葉通り、営巣に適しているという高さ1~1.7メートル位のヨシ原に注目します。しばらくすると、囀りながら3~5メートルほど舞い上がっては元に戻る小鳥がいます。桶の水を竹竿で引っ掻きまわしたような大きなジャボジャボ鳴きは、この鳥と一緒に住んでいるオオヨシキリと同じ仲間らしいことを髭髷とさせます。このオオセツカとコジュリン（小黑頭布、可愛い！）はどちらも初見でしたが、密度が濃いのですぐに見つけられました。成鳥は皆夏羽で色鮮やかです。例年より季節の遅い為か、幼鳥が親から給餌を受ける姿を何度も観察しました。

翌朝、前夜のキャンプファイヤーと花火の名残が観察小屋前の特設テント会場に漂うなか、7回目のオオセツカ祭りが始まりました。今や有名人になった津曲事務局長、日本野鳥の会理事の對馬青森県支部長、小屋建設の際、友人10数人から1万円づつも寄付を集めたという叶内氏、そしてオオセツカ村の東京大使館の小原代表などが挨拶し、三沢市ロータリークラブのオバサン達や青森のTV局からビデオ取材が来るに及んで恒例だというバーベキュー・パーティに移行、全員がうちとけて旧来の友達のように、あちこちで談笑が続きます。この祭りを準備してきた方々は殆どがオオセツカ村の村民で、いづれ村長を選出する予定だそうです。近所の食堂からおかみさんが特産のシジミ汁を、また新鮮な肉、魚や野菜、飲み物は、地元の生協・農協職員である多くの村人が運んでいました。小雨の中、最後に皆と小川原湖の岸辺を探鳥しながら、僕は小さな野鳥がキッカケとなって地道な保護活動が起り、ここまで実って来たことにとても感動していました。

上記以外の野鳥：カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、トビ、オオタカ、チュウヒ、カワセミ、ヒバリ、サンコウチヨウ、ウミネコ、クイナ、オオバン、キジバト、ホトトギス、ハクセキレイ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、アカハラ、ウグイス、コヨシキリ、シジュウカラ、クロツグミ、ホオジロ、ホオアカ、カワラヒワ、イカル、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス（36種）。 以上

アマチュア無線を始めてみませんか(その2)



ステップ1 無線従事者免許取得

- * 会報 1992.8 (No.9) の29ページに詳細があります。
- * 「完全丸暗記」の活用で国家試験を突破します。

ステップ2 無線局免許の取得

- * 無線局免許を申請する場合、使用目的で無線周波数が異なります。日本全土や海外との通信には短波帯(1.9MHz~28MHz)を、カワセミ会員内での通信には超短波帯(144MHzや435MHz)が良いようです。

ステップ3 無線機の購入

- * 超短波帯の無線機は、八重洲・ケンウッド・スタンダード・アイコムなどの差がありません。割引率の高いものがFB(良い)です。
- * 1台で144MHzと435MHzの両方で運用できる方が便利です。

ステップ4 開局

- * 自宅にアンテナを設置します。(標準で1万5千円位でした。)自宅の屋根より高い方が理想的です。ベランダから外へ張り出す場合、壁面から可能な範囲で離します。アンテナから室内へは同軸ケーブル(5D2Vなど)で引き込みます。太い方がロスが少ないけど値段も高くなります。

ステップ5 運用

- * 周波数はアマチュア無線家みんなの共用です。従って、「〇〇の周波数は、いつもカワセミ会の連中が使っている」という実績を作り上げる必要があります。1年くらいの実績を作れば他の人が割り込むことが無くなります。従って最初の1年くらいは周波数について流浪の民の覚悟がいらいます。私の相手をしてくれる1局があれば実績作りに貢献できるのですが……。実績づくりに精進しましょう。

カワセミ会員の中で無線局免許所持者は以下の通りです。

7N2NGU	馬場 裕	JK4NGV	粕谷 和夫
7M2KME	阿江 範彦	JA9BBC	山崎久美子
7L2RID	今井 達郎	JA9AJX	山崎 悠一
JR1WNN	熊坂 政晃		

JA9AJX/1

平 沢 辰 夫

★伊那谷の探鳥記録について

早いものですね、私が八王子を離れてからもう10ヶ月が過ぎます。皆様益々ご活躍のことと存じますが、私の方は新居への入居が具体的になった5月頃から何かと忙しく、此方での探鳥もすっかりお留守になってしまいました。伊那谷の探鳥記録も13頁目に入りまして、1年間のまとめも間もなく出来る時期になりますので、一所懸命頑張っていくつもりですのでどうぞよろしく。

★ノビタキに魅せられて

さして美しいという鳥でもなく、声も派手さがあるわけでもないのですが、私はノビタキという鳥がなぜかとにかく好きなのです。

今年も、4月11日天竜川原、川路の桑畑の♂2羽から5日おくれの16日駒ヶ根市での♀2羽を見てから、更に病み付きになり、なんとか新居のほうもおちついた7月19～20日思い切って蓼科～霧ヶ峰～美が原一泊探鳥に出掛けて見ました。

そうでなくても湿潤な今年の夏、まだ梅雨も明けていない時期でしたが、八島湿原に入るころには幸運にも晴天に恵まれて、ニッコウキスゲ等盛りに咲き競う高原の花々がフィールドスコープのレンズいっぱい映るなかに、居ること居ること正にノビタキだらけと言いたいくらいです。湿原に下りる路が雨水で洗われて川底のようになっていて、その中州の草が残っている所に三脚を立てようとしたその足元からノビタキが飛び出て、ふと足元の草叢を見るとなんとそこに薄墨色の卵が五つも乗っている皿状の巣があったり、そこから100mも離れていない同じようなところで番いのノビタキが盛んに餌を運んで育雛に余念のないところなども観察できて、本当にうれしい時間を過ごすことができました。

その他ウグイス ホオジロ ホオアカ ビンズイ オオヨシキリ カッコウ ホトトギスなども多く、それぞれ子育ての真っ最中であったとおもわれますが、彼らもまた間もなく、ここ信州の高原で生まれ育った子連れを南の国に旅立っていくのかと思うとまた愛しさで感入というものです。

では、又

会員の著書紹介

岩波新書 「象徴天皇」

高橋紘氏著

「かわせみ」11号（本号）に日光探鳥会の紀行文「野鳥か酒か」を投稿して下さった高橋さんの著書です。本の題名から、難しい法律の話を想像していたが、皇室のことが分りやすく綴られ、新聞を読むように読めます。

本書の表紙カバー裏の紹介文によれば、「“松の緑の大内山”とたたえられる皇居。そこにはどんな人たちが住み、どのように働き、そして何が行われているのだろうか。宮内記者会会員の著者が、天皇制をめぐる敗戦前後の興味深いエピソードを紹介しながら象徴天皇誕生の経緯をさぐった上で、豊富な取材体験をもとに、皇室の現在と、そのあり方をめぐっての議論や問題点を報告する。」とあります。

本書によると皇居は、日比谷公園の7倍の広さがあり、都心部で最大の緑と自然が残されていて、渡り鳥を含め70種の野鳥を確認しているそうです。すぐ隣の国会周辺では16種の野鳥が生息している（日本鳥類保護連盟）ことから考えると、皇居は大都市東京のオアシスと言えそうです。いつの日か、皇居で探鳥会が出来るよう、開かれた皇室になってほしいです。また、皇居みたいな自然公園を八王子市内につくり、野鳥を呼び寄せたいものです。（門口）

伊那谷だより

—平沢会員からの便り—

寒い寒いと言っていたつい先日が嘘のように、信濃、伊那谷も今は春らんまん、雪のアルプスも、近くの野山も春霞にすっぽり包まれて、その中に、桜、レンゲツツジ、菜の花、シバザクラなどの花の色が滲んでおります。

ツバメ、イワツバメ、ノビタキなど夏鳥達の数も日毎に増えてきており別紙「伊那谷の探鳥記録」（省略）にあるように、アカショウビンの声も聞けるようになりました。これからのカッコウ類、アカハラ、クロツグミ、オオルリ、サンコウチョウなどのシーズンに期待して、ワクワクするような想いでおります。（一部省略しました）

（「伊那谷の探鳥記録」（1992.10～93.4）8p は事務局にあります）

TAMA・LIFE 21 関連行事に協力参加

(1) 平成5年5月9日(日)八王子市の富士森公園で開催された八王子市のグリーンフェスティバルに当カワセミ会が協力参加しました。当日、会場の富士森公園では、浅川を中心とした野鳥の小型カービングと写真を展示し、見物人に望遠鏡による野鳥の観察指導を実施し、市民の好評を博しました。

(2) 同じく5月16日(日)ふるさとヘルシーウォーキングが開催され、浅川の鶴巻橋・八王子市役所駐車場側の堤防で、上記と同様野鳥のカービングと写真を展示、望遠鏡による野鳥観察の指導を実施しました。当日会場では、実際にコチドリの抱卵の現場を望遠鏡で捉え、参加市民に観せるなど、目的地に急ぐ人々が暫し足を止めて感嘆するといった場面もありました。

TAMA・LIFEフォーラム21(水と緑)に参加して

粕谷和夫

TAMAらいふ21・湧水崖線研究会主催の第2回フォーラムが平成5年5月15日、日野市市民会館小ホールで開催され、同研究会が取り組んできた4つの「地域環境保全プログラム」についての中間報告がなされた。

4つとは「浅川流域」「落合川流域」「野川流域」「鶴見川流域」でこの内浅川流域については、東京都緑の推進委員で浅川地区環境を守る婦人の会代表の加藤文江氏から報告された。

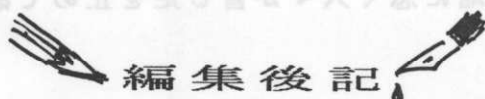
本研究会の活動は、八王子カワセミ会の今後の活動とも関連があると思われるので、当日のフォーラムで感じたことを紹介します。

フォーラムでは様々な意見や提言がなされたが、特に強い印象を受けたのは次の2点です。

第1は「地域環境保全プログラム」策定に当って、都縣市町村等の行政単位でなく「流域の視点」を基本に置くことが必要であるということ

第2は「源流地域の保全」が基本的に重要であるということでした。

八王子カワセミ会は、既に八王子市、日野市という行政単位でなく、浅川流域全域を一体として活動領域としていること、また新たに八王子市の鳥として制定されたオオルリの生息環境の保全の一助にと、オオルリの生息数を毎年調査しているが、このオオルリが生息している地域が正に「源流地域」であり、当会の活動が今後益々各方面から注目されるのではないかと感じた次第であります。



編集後記

- ♥ 国会解散、反自民連合政権誕生、政・官・財の贈収賄汚職、北海道奥尻島の大地震、九州鹿児島地方の台風災害・・・永雨の及ぼした影響、はたまた円が百円を割り込むかという、今年の前般は一体どうなるの日本はと考えさせられる事件で推移した。
自然の脅威を改めて認識し、人間の横暴と奢りを反省し、地球の将来を考えることの大切さをつくづく思います。
- ♠ 浅川の冬鳥調査結果、今年のおオルリの飛来状況 e t c・・・我々の住む環境の変化を、こうした野鳥観察を続ける中で読みとることができるのではないか・・・
- ♣ この11号会報が発行される頃、ツギ、チドリへの渡りが活発になる。干潟や湿源が減少しつつある今日、彼等の生息に思いを馳せると、また胸が痛む・・・
- ◆ 少々センチになり恐縮・・・11号も皆で作りました。是非 良く読んで下さい。では乾杯！

株式会社 土屋隆建築設計事務所



代表取締役 土屋 隆

事務所 〒192 東京都八王子市八日町9-12 ミナミビル4F
TEL (0426)25-2361 FAX (0426)24-9604

業務用酒類食品専門卸



株式会社 **ジャックフル浦島屋**

〒192 八王子市元横山町 3-7-14
TEL (0426)25-1477 (代表)
FAX (0426)25-1248

事業所

- | | | | |
|------------------|------------|------------------|--------|
| ★田町配送センター | ～田町1-5 | TEL 0426-26-4953 | |
| | | FAX 0426-26-8922 | |
| ★田町現金卸売センター『酒市場』 | ～田町2-5 | TEL 0426-26-1330 | |
| | 本社ビル1階 | FAX 0426-25-2581 | |
| ★料飲店経営情報センター | ～田町2-5 | TEL 0426-25-1477 | |
| | 本社ビル2階 | FAX 0426-25-1248 | |
| ★大和田宅配センター | ～大和田町2-9-2 | TEL 0426-44-6412 | |
| | | FAX 0426-44-6412 | (夜間切替) |
| ★リカーキング高倉店 | ～高倉町50-6 | TEL 0426-44-7151 | |
| | | FAX 0426-44-7152 | |
| ★リカーキング北野駅前店 | ～北野町545-5 | TEL 0425-45-2282 | |
| | | FAX 0425-44-0059 | |



Hachiōji
Kawasemikai

カ　ワ　セ　ミ

1993年8月

— 第 11 号 —

発行人 粕谷和夫 (八王子カワセミ会・会長)

編集人 三好恒雄

連絡先 八王子市中野上町5-29-3 TEL:0426-26-8634